

統文化や生活生業とともに各地域を特徴づける要素として集積し、現在にまでその痕跡を引き継いでいるのである。



写真 12 国際交流の窓口であった平戸港



写真 13 平戸オランダ商館



写真 14 アーチの技術（幸橋：オランダ橋）



写真 15 南蛮菓子（カスドース）

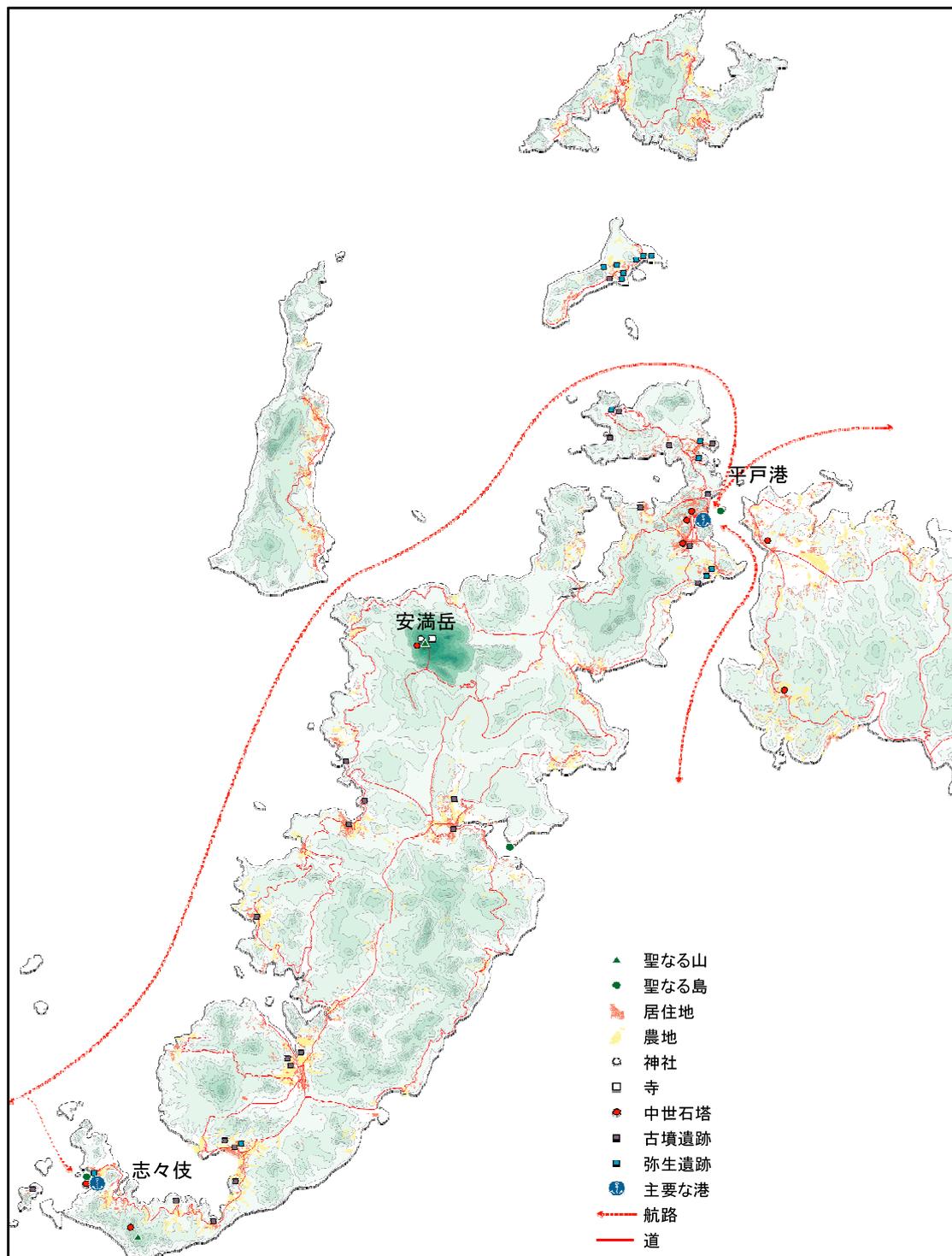


図 19 12～13 世紀頃の状況

平戸の海外貿易の歴史は少なくとも 9 世紀まではさかのぼることが史料で確認されている。安満岳は海上交通の目印となり信仰され、中世にも密教の信仰対象であったことが石造物などから確認できる。松浦一族は、それぞれの本拠地を定め、室町時代から安土桃山時代にかけて佐賀県西北部および長崎県北部一帯に群雄割拠した。小規模ながら同盟を組んで事にあたってきたものの、永享 6 年（1434）の白狐山城の戦いを契機に戦乱の様相が現れてくる。平戸松浦家 23 代弘定<sup>ひろさだ</sup>は文明 15 年（1483）、志々伎を除く一帯を平戸に帰属させた。

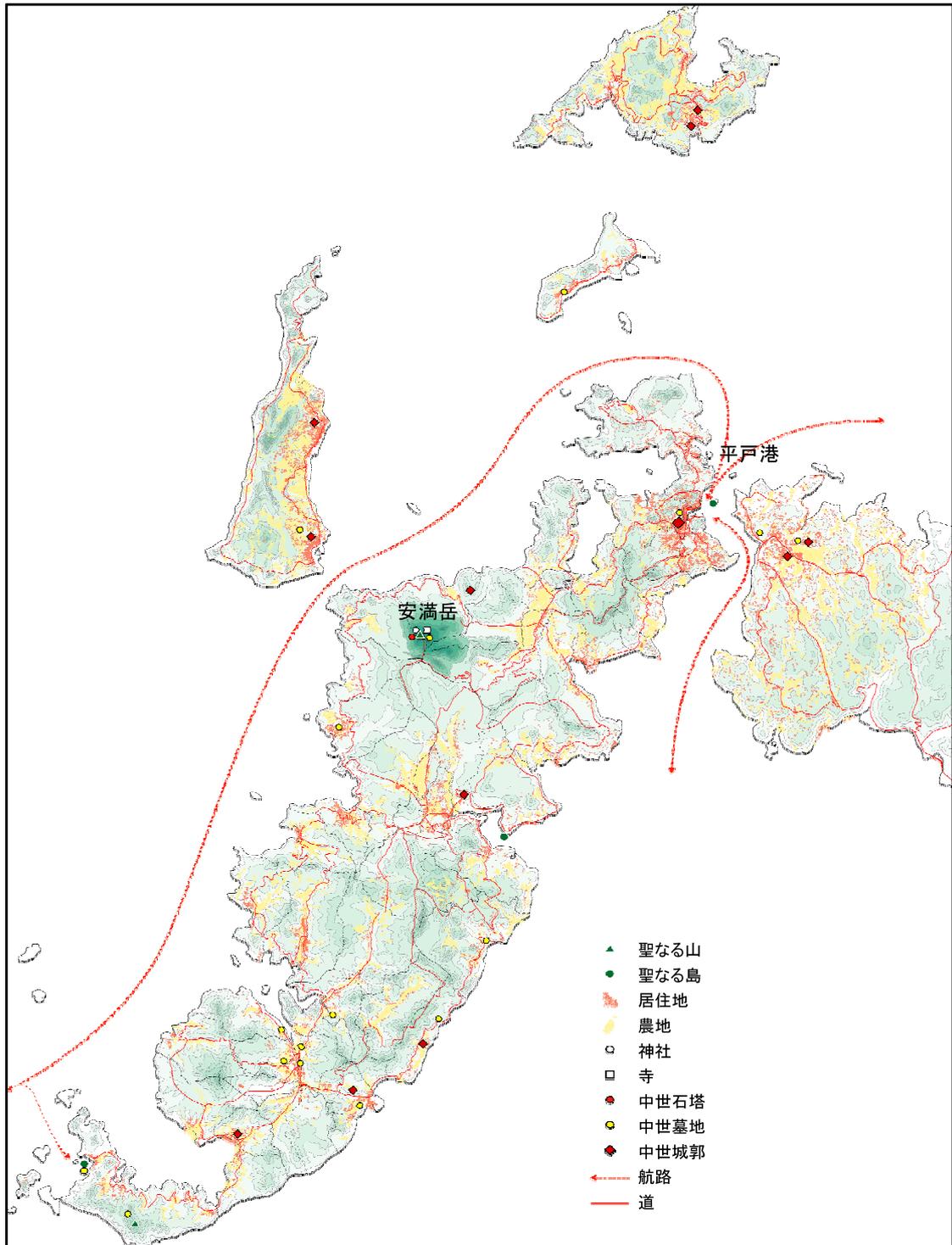


図 20 16 世紀初頭の状況

かねてより大陸の私商が多く訪れて賑わいを見せていた平戸港であったが、25 代隆信は、<sup>たかのぶ</sup>中国人海商の首領であった王直を平戸港に招き入れ、中国交易を盛んに行い、勢力拡大を図った。以降、平戸は「西の都」と呼ばれるほどの繁栄をみせる。王直の手引きによって天文 19 年（1550）ポルトガル商船が平戸に入港すると、平戸は一気に西欧貿易港として注目されていくことになる。

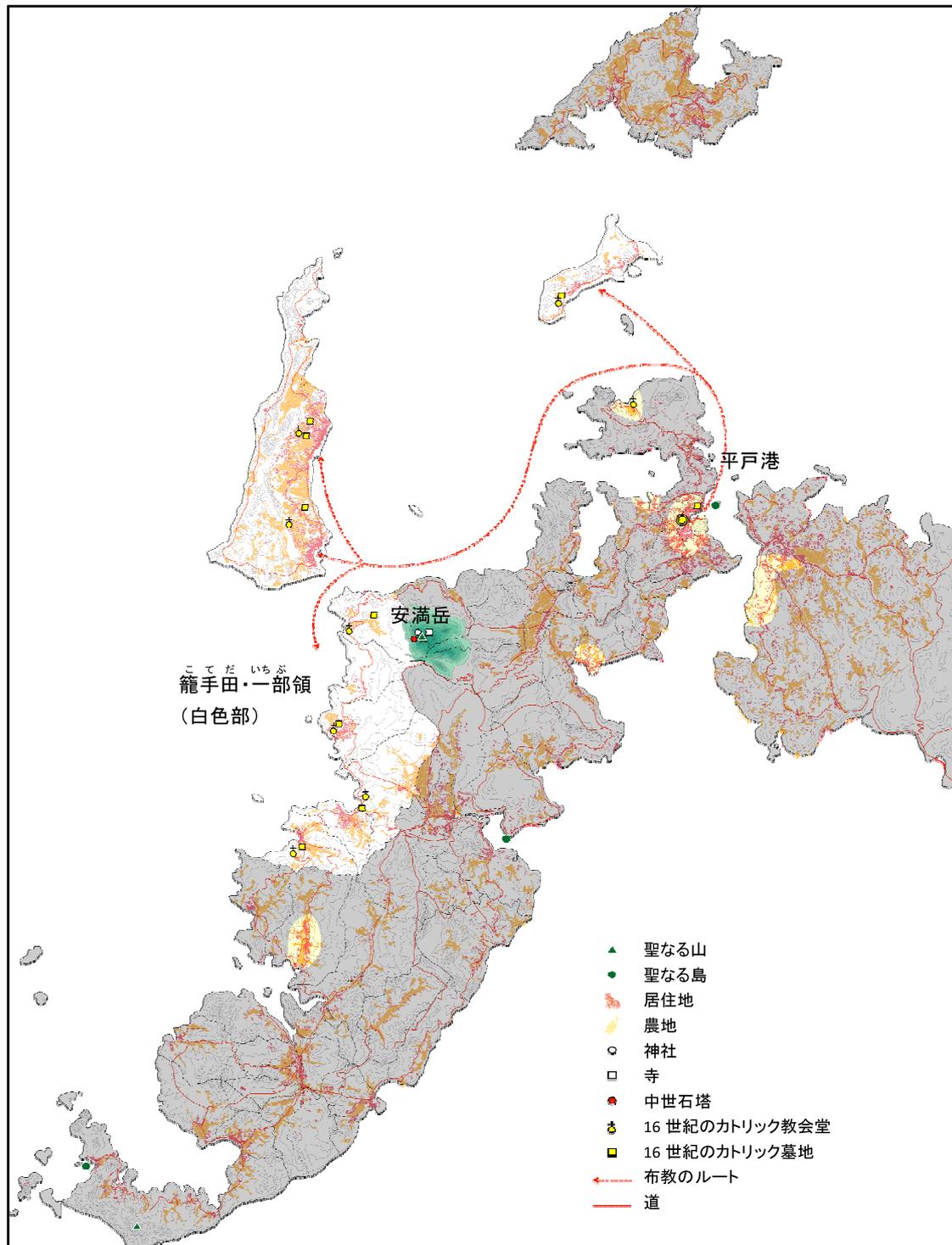


図 21 16 世紀中庸以降の状況

天文 19 年（1550）平戸に来航したポルトガル船員にミサを行うためにザビエルが平戸を訪れる。平戸における布教は、当初は平戸港周辺での個別の布教であったが、永禄元年（1558）と永禄 7 年（1565）には、生月島や平戸島西岸の籠手田・一部領（図 21 白色部）で一斉改宗が行われている。村々には教会や十字架が建てられ、信者は信仰組織によって様々な行事を行い、オラショというキリスト教の祈りを唱えた。

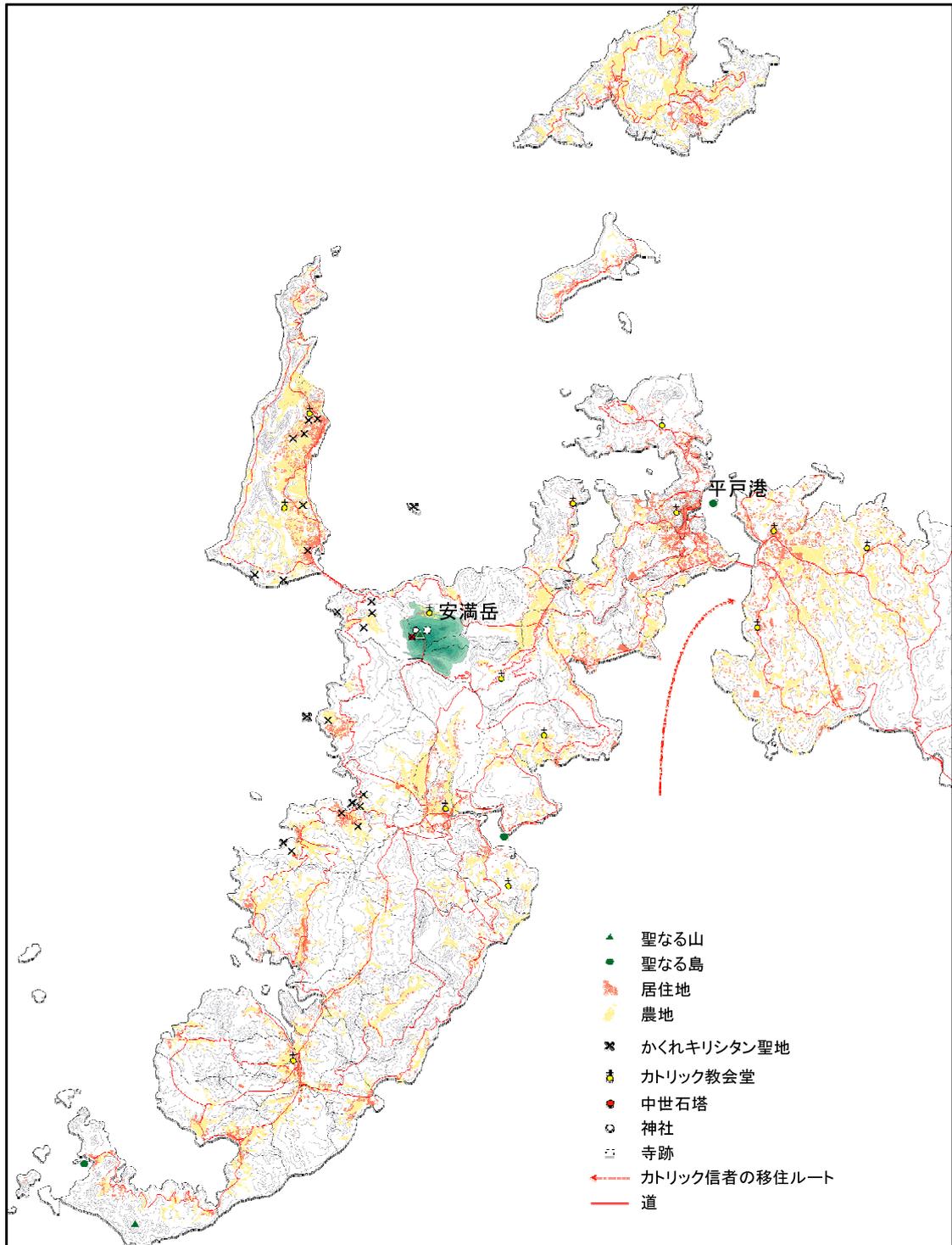


図 22 19 世紀から 20 世紀頃の状況

慶長 4 年（1599）に、それまでキリスト教の布教に寛容であった領主が没したことをきっかけに、平戸ではキリスト教への弾圧が強まっていく。慶長 5 年（1600）頃には、一斉改宗を行った各集落で信仰組織が作られており、その組織によって、当時のキリシタン信仰の形態は、禁教時代にも保持され、殉教にまつわる聖地やキリスト教の祭具などをご神体としながら潜伏時代を経て、こんにちの「かくれキリシタン信仰」まで継承されている。

## 2-4-2. 平戸港周辺における城下町の形成

### (1) 平戸城下町のなりたち

一般的に港ができる場所の条件は、「船の出入りの容易さ」と「波風が避けられる地形であるか」の2点であるとされる。つまり、海が袋状に深く湾入している地形がよいとされ、現在の平戸港は埋め立てが進み、奥行きを感じられない港であるが、文化元年（1804）に築地町の埋め立てが完成するまでは、まさしく「袋状」の港であった。これに加え、瀬戸の両側には陸地が迫り風の影響を受けにくかったことや、一定の時間に一定の方向に潮が流れるということも、時間さえはかれれば容易に出入りできるという利点になった。

このような条件のもと、国境をまたぐ港町が形成され、そこに平戸松浦氏が本拠を置くことで城下町として発展していくことになる。

平戸がいわゆる城下町という特性を持つのは、17世紀中期から19世紀後期までの約200年程度であるが、平戸港では、それ以前の9世紀頃から大陸との交易を行っており、その歴史と繁栄を刻んできた。一般的に城下町の構造は、城を中心としてその周囲に家臣の屋敷、さらにその周囲に武家屋敷があり、その外側に町民の街区が形成される。一方、平戸では港を中心とした平地部に町民の街区が形成され、それを囲む丘陵地に藩主の居館や家臣の屋敷、寺社が配されている。現在、亀岡に建つ平戸城の場所に港の後背地から城が移されたのは、慶長4年

（1599）のことであり、こうした構造は、平戸市街地が城下町として発達したのではなく、港町であり、交易都市として発展してきたことを示している。（図23）

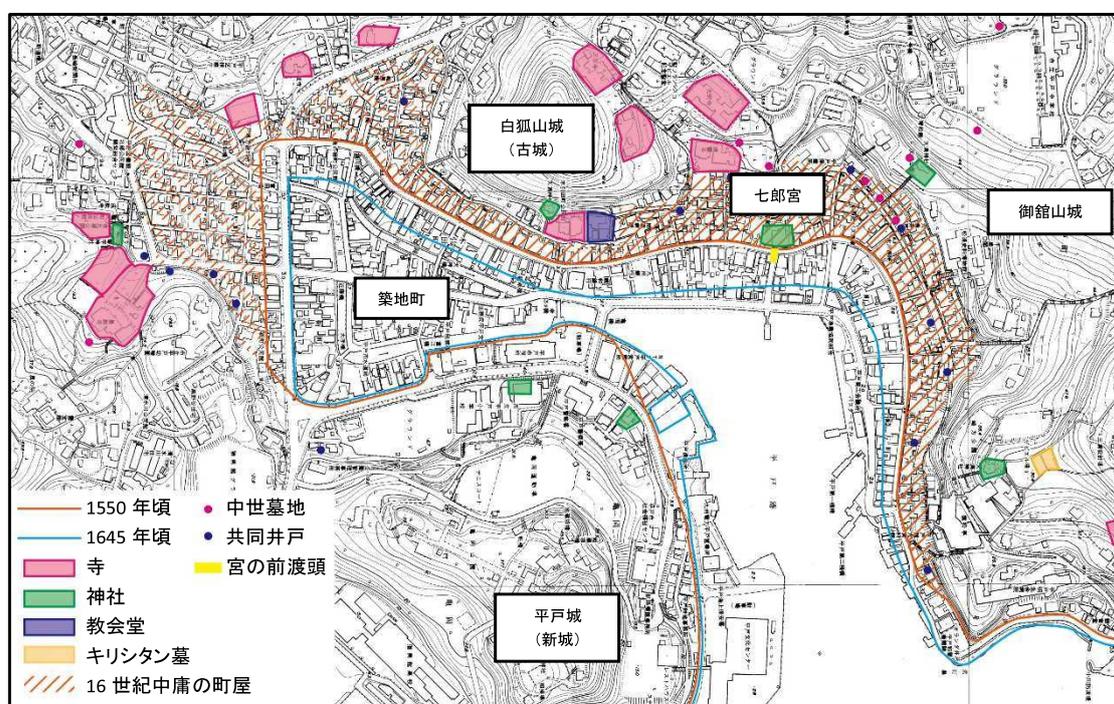


図23 平戸港周辺の変遷図

## (2) 平戸城と居城の変遷

平戸藩主松浦氏は、その始祖を平安時代嵯峨天皇の第18皇子源融<sup>とある</sup>とし、その子孫で11代松浦持<sup>たもつ</sup>が、嘉禄元年（1225）頃に現在の松浦史料博物館の裏山に「御館山城」（写真16）を築いた。正平7年（1352）16代勝<sup>すぐる</sup>が現在の勝尾岳に「白狐山城」を築くと、松浦氏は長く居城とし、室町時代・戦国時代を過ごした。文禄慶長の役（1592－1598）に従軍した26代鎮真<sup>しげのぶ</sup>は、凱旋の翌年の慶長4年（1599）に、朝日岳（日の岳）と呼ばれていた現在の亀岡に近世城郭「日の岳城」を築いた。日の岳城は、それまでの城とは異なり、櫓や塀、石垣、門塀などを備えた大きな城であった。

日の岳城は、慶長18年（1613）の失火<sup>10</sup>によって焼失したため、元和6年（1620）頃に「御館」<sup>おたち</sup>を建設、居館・藩庁とした。

その後、享保3年（1718）30代棟<sup>たかし</sup>の代に再び亀岡に「平戸城」（写真17）を再築、明治4年（1871）廃城となる。

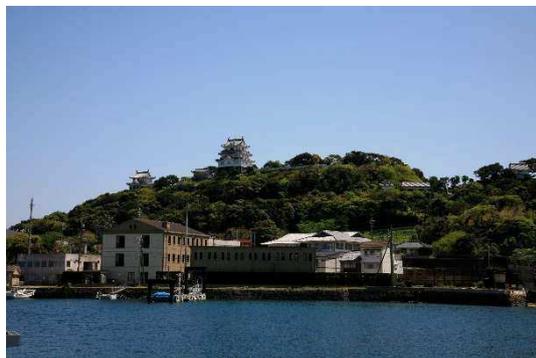
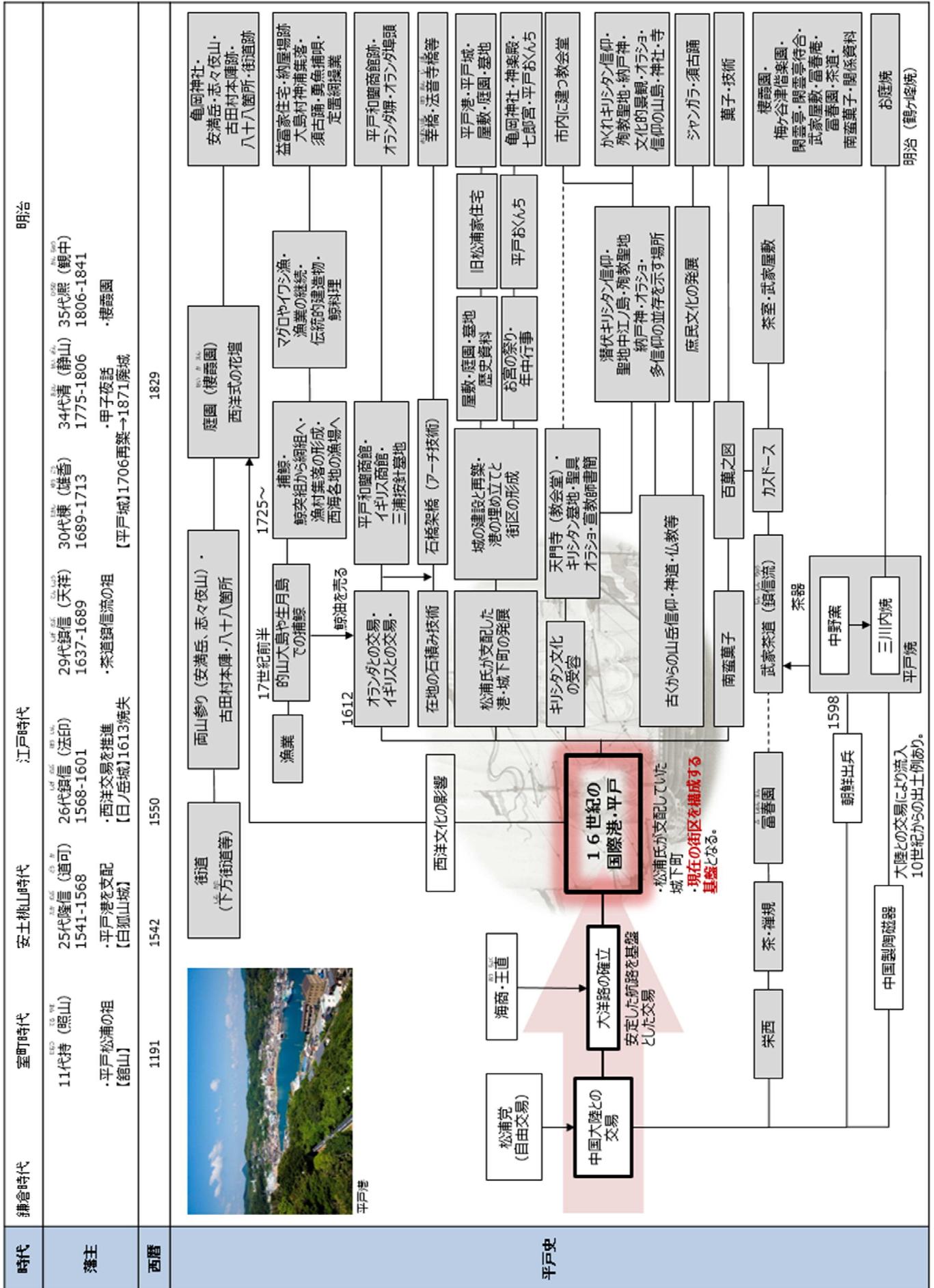


写真16 御館山城が築かれた松浦史料博物館の裏山 写真17 平戸城（現在の城は昭和に再建）

### 【参考文献】

- 1) 山田千香子、吉居秀樹（2011）『平戸・西海学 長崎県北の歴史と文化』
- 2) 平戸市（2011）『重要文化的景観「平戸島の文化的景観」周知啓発フォーラム 配布資料』
- 3) 平戸市（2016）『平戸市総合戦略 第1部平戸市人口ビジョン』
- 4) 平戸市教育委員会（2011）『平戸 海外に開かれた自由な港市 シンポジウム報告集』
- 5) 平戸市史編さん委員会（1998）『平戸市史 古写真編 想い出の平戸』
- 6) 平戸市史編さん委員会（1998）『平戸市史 民俗編』
- 7) NPO 法人平戸観光ウェルカムガイド（2009）『平戸検定公式テキストブック 平戸の文化と自然』

<sup>10</sup> 慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いに松浦氏が参戦しなかったことで、徳川氏から敵視されることを恐れていた時期であり、当時の風説では松明の火の粉が城に燃え移ったという話がセーリスの日記（日本渡航記）にあるが、広域な城が全焼しているため、失火というのは口実で自ら焼き払ったのではないかとされている。



※製本時は、A3 折りになります。

平戸市歴史文化基本構想  
 「港市平戸」の歴史文化まちづくり

図 24 大陸との航路を軸に見た平戸の歴史



## 2-5. 自然的環境

### 2-5-1. 自然環境

平戸市は九州の西、長崎県の北西端に位置し、<sup>ひらどしま</sup>平戸島、<sup>いきつきじま</sup>生月島、<sup>あづちおおしま</sup>的山大島、<sup>たくしま</sup>度島、<sup>たかしま</sup>高島の有人島及び九州本土北西部の沿岸部に位置する田平と周辺の多数の島々で構成されている。  
(図 25)



図 25 地形図

平戸島は平戸大橋により田平と、生月島は生月大橋により平戸島とそれぞれ結ばれている。的山大島、度島、高島は離島であり、交通手段は船舶のみである。平戸島は、東西の両側に、

起伏量 200m内外の中起伏火山地が北東～南西方向に存在し、その間に谷が発達しており、火山地を大きく二分している。また、九州本土に位置する田平地区は、全体的になだらかな丘陵地で、南から北に向かって緩やかに傾斜した溶岩台地が広範囲を占めている。

生月島は、南北に走る溶岩台地によって東西に分かれている。溶岩台地の東西両側には、多発した地すべりの土石流による山麓地が形成されている。中央部には陥没による低地があり、現在も地すべりの多発地帯をなしている。

気候は、周囲のほとんどが海に囲まれており、対馬暖流と季節風の影響を受け、海洋性の温暖な気候で、通年の平均気温は 16～17℃、年間平均降水量は 2,000mm 前後である（表 11）。

表 11 平戸市の平均気温及び降水量

|          | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均気温 (℃) | 6.7   | 7.3   | 9.9   | 14.0  | 17.7  | 21.0  |
| 降水量 (mm) | 81.5  | 92.5  | 156.0 | 184.8 | 205.4 | 310.6 |
|          | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   |
| 平均気温 (℃) | 24.9  | 26.3  | 23.4  | 18.9  | 13.9  | 9.2   |
| 降水量 (mm) | 362.3 | 215.6 | 233.4 | 94.6  | 104.4 | 68.3  |

※年間平均気温 (16.1℃)、年間降水量 (2,109.3mm)

市域は、安山岩や凝灰岩などの火成岩が主体になっている。これらの火成岩は、今から約 1500 万年前の火山活動や地殻変動によるもので、各所にその影響を受けた地形や景観を見ることができる。平戸島の<sup>しら</sup>白岳、<sup>やずまん</sup>小富士、<sup>ゆうそうず</sup>安満岳、<sup>じげん</sup>有僧都岳、<sup>つがて</sup>慈眼岳、<sup>まじ</sup>白岩岳、<sup>まじ</sup>礫岩、<sup>びょうぶ</sup>佐志岳、<sup>しじき</sup>屏風岳、<sup>しじき</sup>浜岳、<sup>しじき</sup>志々伎山などはその頃の火山地形をした山々で、平戸の景観を形作っているだけでなく、地域の象徴としても親しまれている。ある程度の厚さの玄武岩は柱状節理となり、生月島西岸や田平北部の観光資源にもなっている。平戸島北部や生月島、<sup>あづち</sup>的山大島、<sup>たく</sup>度島、田平には、日本最大級と言われる北松玄武岩台地の西端が分布している。

## 2-5-2. 地形・地質

平戸島は、東西の最大幅約 9km で、北東から南西方向に約 40km 伸びた面積 163 km<sup>2</sup>の平戸市最大の島である。平戸島の最高峰は安満岳 (536m) で、西側の生月島からは原生林の上部に崖が広がる残丘地形を見ることができる。

中部の<sup>ひちまじ</sup>紐差から<sup>ねしこ</sup>根獅子にかけての地域は、<sup>へんきゅう</sup>変朽安山岩 (プロピライト) という変質岩があり、以前は陶器の原料として採掘されていたようである。

安満岳西側の山野から春日にかけてと、大志々伎の潮見崎、宮の浦のオイトク島あたりは火山灰が火砕流の影響を受けてきた溶結凝灰岩がある。安満岳北西部、呼崎 (白石) の灰白

色の軽石凝灰岩や春日付近の層灰岩は、いずれも火山岩質の岩石や火山灰が起源で、数百万年前の火山活動の産物と考えられる。(図 26、図 27)

### 2-5-3. 植生

平戸市は大陸に近く、10 数万年一約 2 万年前に生じた最終氷河期に、植物の移動分布の影響を受けやすかったと考えられ、さらに対馬海流は暖流系植物の北上分布にも大きく影響していると思われる。このような自然環境を有する平戸市域の植生は、大陸系および暖流系の植物が他地域より多く、やや高所には北方系の種が入り込んでいて複雑であり、平戸島南部を中心に固有種や準固有種を含め、独特の植物相を形成している。平戸島南部には、「平戸<sup>つばて</sup>礫岩の岩石地植物群落（国指定天然記念物）」(写真 19) があるように、平戸固有種を含めた地域を特徴づける貴重植物が集まっている。

安満岳から鯛の鼻にかけてアカガシヤマシキミ群落があり、安満岳の頂上付近に原生林(写真 20) として残存している。集落付近や川内峠(写真 21) などではマテバシイハクサンボク群落、シイカシ萌芽林、スギーヒノキ植林が目立つ。海岸林は、ハマビワオニヤブソテツ群集で、生月島ではクロマツ群落もみられる。海岸植物群落としては、ダルマギクホソバワダン群集がツワブキやコオニユリを伴って生月島などにある。

草原は、ススキメガルカヤ群集などとなり、川内峠、佐志岳、上段の野、春日、高越、生月島などに出現する。(図 28)



写真 18 生月島南部周辺航空写真



写真 19 礫岩



写真 20 安満岳自然林



写真 21 川内峠

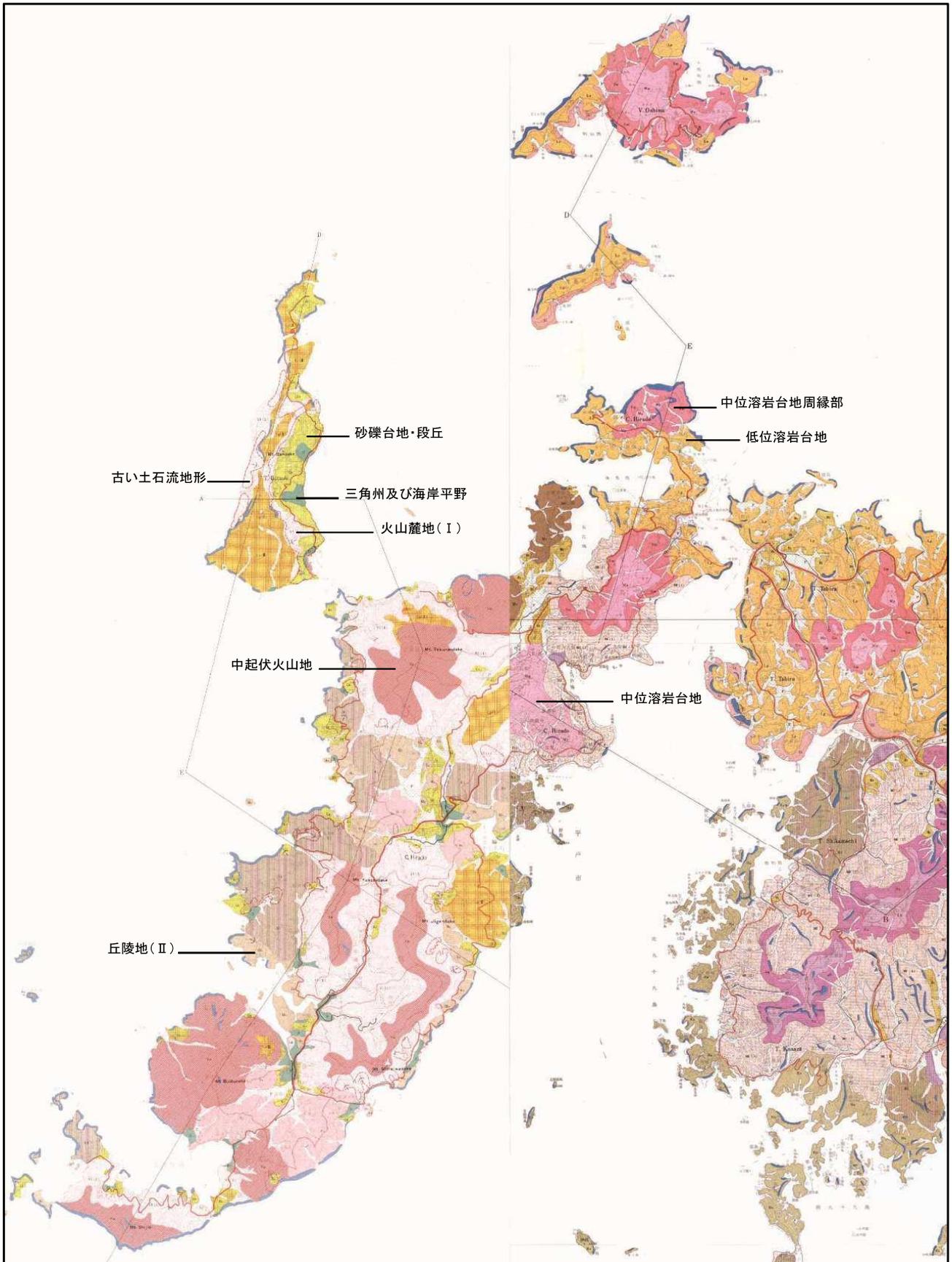


图 26 地形分類図 (旧国土庁 1974)



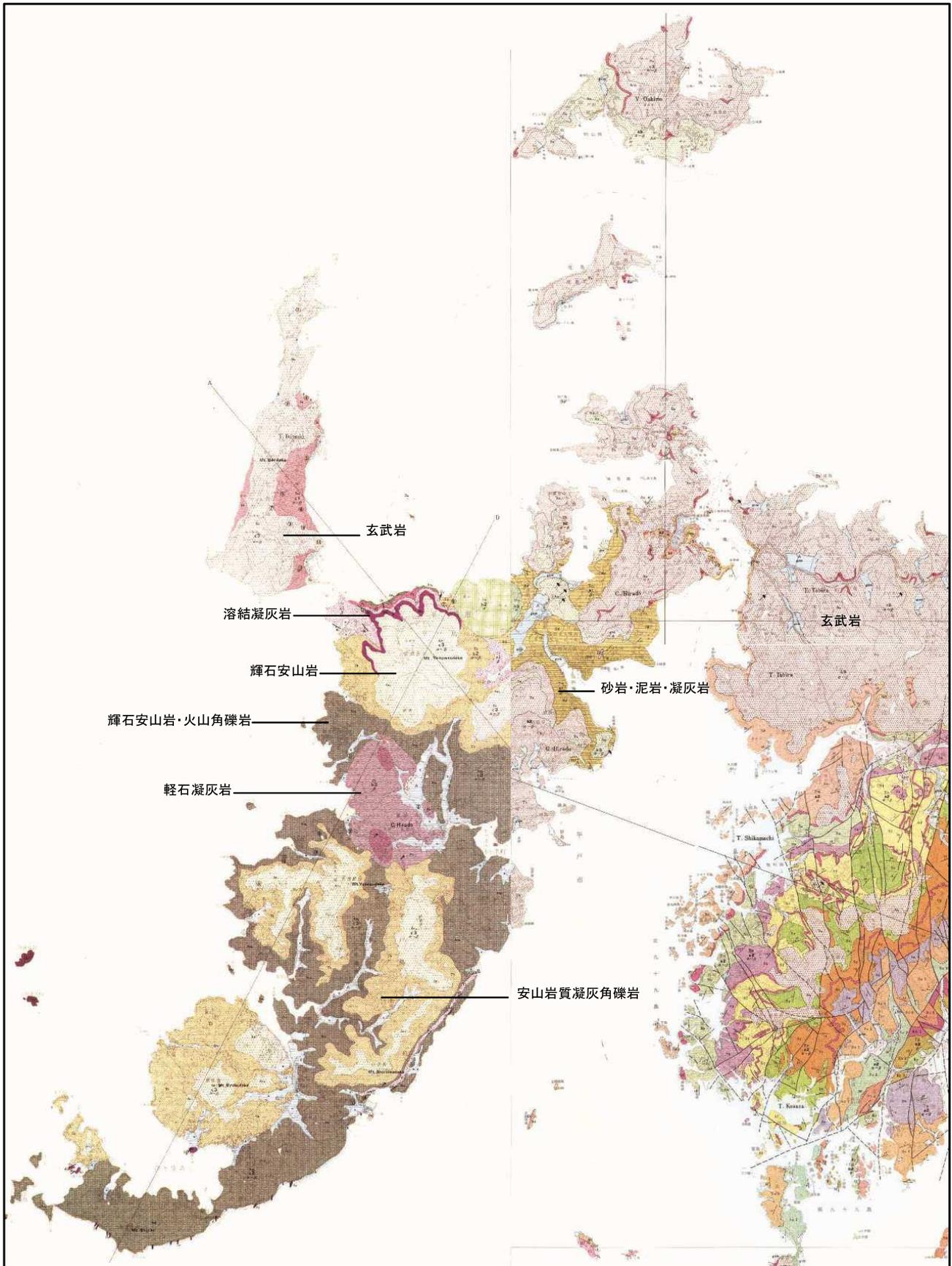


図 27 表層地質図 (旧国土庁 1974)

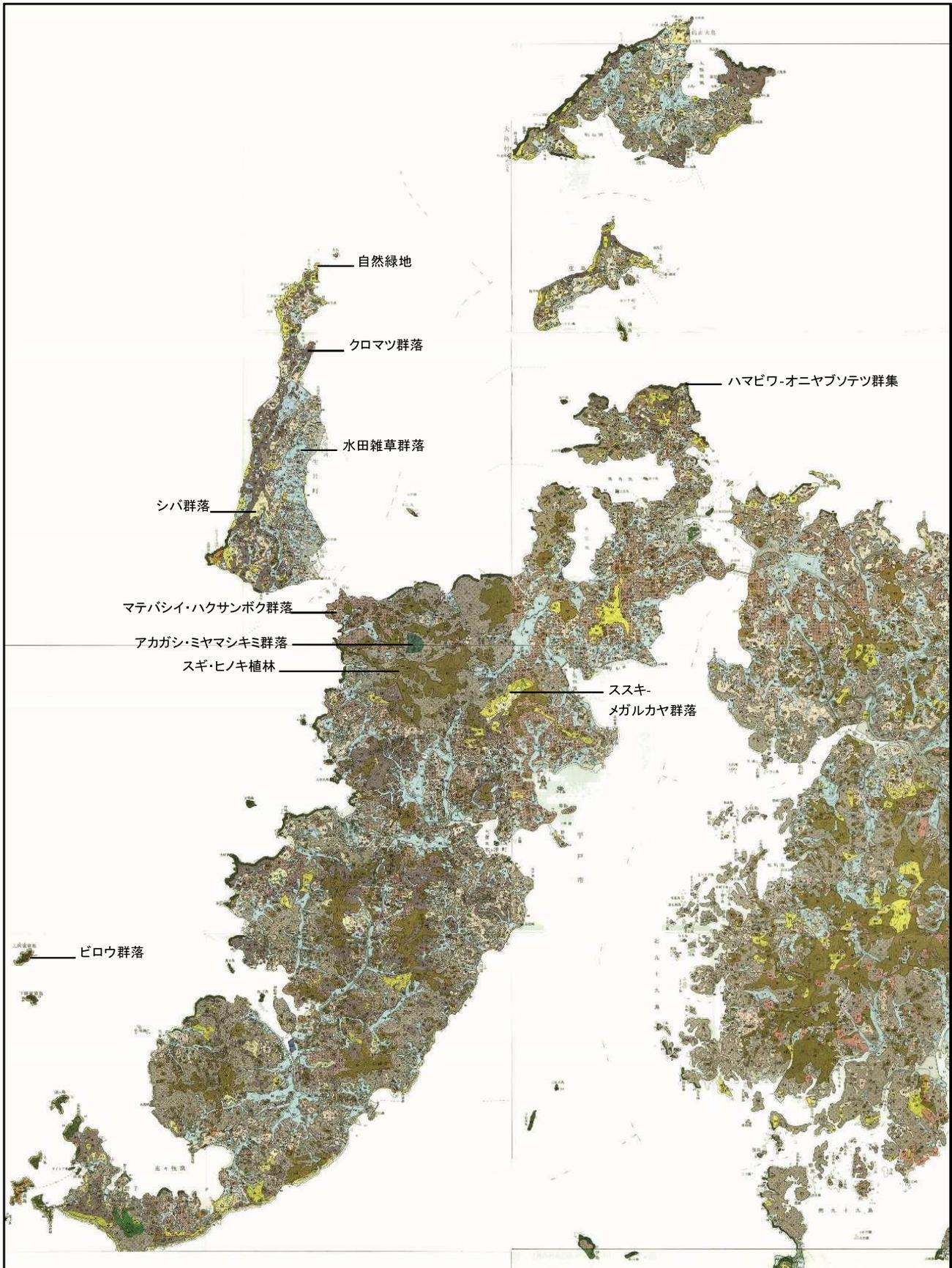


図 28 現存植生図 (旧国土庁 1974)



## 第3章. 文化財把握の方針

### 3-1. 文化財施策の現状と課題

#### 3-1-1. 平戸市の指定文化財等一覧

平戸市には、先人たちが守ってきた豊かな文化財に加えて、原始・古代から中国・朝鮮半島とのつながりや大航海時代のヨーロッパ諸国との交流を示す史跡など、数多くの文化財が存在（表 12・13、図 29）している。また、世代を重ねて伝えられた祭り、行事、民俗芸能など多彩な地域資源を有している。平戸市では、これらの集落に内包される地域資源について、その基礎的研究を継続し、その価値の普及啓発を図るとともに、文化財への指定を推進することとしている。



表 12 指定文化財等集計表（平成 29 年（2017）4 月 1 日現在）

| 区分  | 有形文化財 |    |    |    |       |     |      |      |    | 民俗文化財 |    |    | 記念物 |    |       | 伝建 |     | 文景 | 計   |
|-----|-------|----|----|----|-------|-----|------|------|----|-------|----|----|-----|----|-------|----|-----|----|-----|
|     | 建造物   | 彫刻 | 絵画 | 工芸 | 書跡・典籍 | 古文書 | 考古資料 | 歴史資料 | 小計 | 有形    | 無形 | 小計 | 史跡  | 名勝 | 天然記念物 | 小計 | 重伝建 |    |     |
| 国   | 指定    | 2  | 0  | 1  | 2     | 0   | 0    | 0    | 5  | 0     | 2  | 2  | 1   | 1  | 3     | 5  | 0   | 0  | 12  |
|     | 選定    | 0  | 0  | 0  | 0     | 0   | 0    | 0    | 0  | 0     | 0  | 0  | 0   | 0  | 0     | 0  | 1   | 1  | 2   |
|     | 選択    | 0  | 0  | 0  | 0     | 0   | 0    | 0    | 0  | 0     | 2  | 2  | 0   | 0  | 0     | 0  | 0   | 0  | 2   |
| 県指定 | 5     | 5  | 6  | 9  | 1     | 5   | 2    | 3    | 36 | 2     | 3  | 5  | 10  | 0  | 11    | 21 | 0   | 0  | 62  |
| 市指定 | 1     | 9  | 0  | 6  | 4     | 0   | 3    | 0    | 23 | 18    | 13 | 31 | 29  | 0  | 13    | 42 | 0   | 0  | 96  |
| 国登録 | 30    | 0  | 0  | 0  | 0     | 0   | 0    | 0    | 30 | 0     | 0  | 0  | 0   | 0  | 0     | 0  | 0   | 0  | 30  |
| 市認定 | 0     | 0  | 0  | 0  | 0     | 0   | 0    | 0    | 0  | 2     | 0  | 2  | 7   | 0  | 0     | 7  | 0   | 0  | 9   |
| 計   | 38    | 14 | 7  | 17 | 5     | 5   | 5    | 3    | 94 | 22    | 20 | 42 | 47  | 1  | 27    | 75 | 1   | 1  | 213 |

※市内には、174 件の指定文化財と 30 件の登録文化財のほか、約 300 箇所の埋蔵文化財包蔵地がある。

※平成 25 年度から、市の認定文化財という制度を設け、9 件が認定されている。



写真 22 平戸のジャンガラ【国指定無形民俗】



写真 23 亀石様【市認定史跡】

表 13 指定文化財等一覧表（平成 29 年（2017）4 月 1 日現在：市が管理を行っている名簿順）

| No. | 区分  | 種別       | 名称                 | 所在         |
|-----|-----|----------|--------------------|------------|
| 1   | 国指定 | 絵画       | 絹本著色仏涅槃図一通         | 岩の上町       |
| 2   | 国指定 | 工芸品      | 鍔頭大刀無銘拵付一口附大刀図一通   | 岩の上町       |
| 3   | 国指定 | 史跡       | 平戸和蘭商館跡            | 崎方町、大久保町   |
| 4   | 国指定 | 天然記念物    | 黒子島原始林             | 大久保町       |
| 5   | 国指定 | 天然記念物    | 阿値賀島               | 早福町        |
| 6   | 国指定 | 建造物      | 幸橋                 | 岩の上町       |
| 7   | 国指定 | 無形民俗     | 平戸神楽               | 平戸市内       |
| 8   | 国指定 | 工芸品      | 紺糸緘肩白赤胴丸           | 鏡川町        |
| 9   | 国指定 | 無形民俗     | 平戸のジャンガ            | 平戸市内       |
| 10  | 国指定 | 天然記念物    | 平戸礫岩の岩石地植物群落       | 大佐志町       |
| 11  | 国指定 | 建造物      | 田平天主堂              | 田平町        |
| 12  | 国指定 | 名勝       | 棲霞園及び梅ヶ谷津倍楽園       | 岩の上町、明の川内町 |
| 13  | 国選定 | 伝統的建造物群  | 大島村神浦伝統的建造物群保存地区   | 大島村        |
| 14  | 国選定 | 文化的景観    | 平戸島の文化的景観          | 平戸市春日町ほか   |
| 15  | 国選択 | 無形民俗     | 大島の須古踊り            | 大島村        |
| 16  | 国選択 | 無形民俗     | かくれキリシタン習俗         | 生月町        |
| 17  | 県指定 | 史跡       | 鄭成功居宅跡             | 川内町        |
| 18  | 県指定 | 天然記念物    | 平戸市中の浦ソテツ群落        | 大久保町       |
| 19  | 県指定 | 史跡       | コックスの甘藷畑跡          | 川内町        |
| 20  | 県指定 | 史跡       | 積徳堂跡               | 岩の上町       |
| 21  | 県指定 | 天然記念物    | 亀岡のマキ並木            | 岩の上町       |
| 22  | 県指定 | 県指定天然記念物 | 平戸古館のピロウ自生地        | 大久保町       |
| 23  | 県指定 | 天然記念物    | 平戸口のピロウ自生地         | 田平町        |
| 24  | 県指定 | 天然記念物    | 平戸のシカ              | 安満岳        |
| 25  | 県指定 | 史跡       | 中野窯跡               | 山中町        |
| 26  | 県指定 | 絵画       | 長崎日蘭貿易絵巻一巻         | 鏡川町        |
| 27  | 県指定 | 絵画       | 長崎日清貿易絵巻三巻         | 鏡川町        |
| 28  | 県指定 | 絵画       | 文珠菩薩絵像一幅           | 鏡川町        |
| 29  | 県指定 | 絵画       | 異国船絵巻一巻            | 鏡川町        |
| 30  | 県指定 | 絵画       | 原城攻囲陣営並城中図一幅       | 鏡川町        |
| 31  | 県指定 | 工芸品      | 伝八幡船の旗一流           | 鏡川町        |
| 32  | 県指定 | 工芸品      | 松浦家伝来紋入古旗二流        | 鏡川町        |
| 33  | 県指定 | 工芸品      | 松浦家伝来船幟一流          | 鏡川町        |
| 34  | 県指定 | 工芸品      | 資始具足一領             | 鏡川町        |
| 35  | 県指定 | 工芸品      | 大哉具足一領             | 鏡川町        |
| 36  | 県指定 | 彫刻       | 伝オランダ船船首飾り木像       | 鏡川町        |
| 37  | 県指定 | 有形民俗     | 捕鯨銃（附火矢・火矢抜き・早盒）一式 | 鏡川町        |
| 38  | 県指定 | 無形民俗     | 大島のジャンガ            | 大島村        |
| 39  | 県指定 | 史跡       | 里田原遺跡              | 田平町        |
| 40  | 県指定 | 天然記念物    | 志自岐神社地の宮・沖の宮社叢     | 野子町        |
| 41  | 県指定 | 彫刻       | 最教寺の懸仏             | 岩の上町       |
| 42  | 県指定 | 史跡       | 式内社志々伎神社跡          | 野子町        |

| No. | 区分  | 種別    | 名称                         | 所在       |
|-----|-----|-------|----------------------------|----------|
| 43  | 県指定 | 工芸品   | 最教寺の繡帳誕生仏一幅                | 岩の上町     |
| 44  | 県指定 | 彫刻    | 阿弥陀寺の木造十一面観世音菩薩坐像          | 野子町      |
| 45  | 県指定 | 史跡    | 平戸の六角井戸                    | 鏡川町      |
| 46  | 県指定 | 工芸品   | オランダ船鉄錨及び付属文書              | 鏡川町      |
| 47  | 県指定 | 天然記念物 | 平戸沖の島樹叢                    | 紐差町      |
| 48  | 県指定 | 無形民俗  | 度島の盆ごうれい                   | 度島町      |
| 49  | 県指定 | 天然記念物 | 海寺跡のハクモクレン                 | 田平町      |
| 50  | 県指定 | 天然記念物 | 是心寺のソテツ                    | 田平町      |
| 51  | 県指定 | 書跡・典籍 | 紺紙金字法華経八巻（箱つき）             | 岩の上町     |
| 52  | 県指定 | 有形民俗  | 長泉寺の鯨供養石造五重塔               | 前津吉町     |
| 53  | 県指定 | 彫刻    | 普門寺の金銅菩薩立像一体               | 木ヶ津町     |
| 54  | 県指定 | 建造物   | 雄香寺開山堂                     | 大久保町     |
| 55  | 県指定 | 天然記念物 | 塩俵断崖の柱状節理                  | 生月町      |
| 56  | 県指定 | 建造物   | 宝亀教会                       | 宝亀町      |
| 57  | 県指定 | 彫刻    | 大聖寺の銅造大日如来坐像               | 鏡川町      |
| 58  | 県指定 | 歴史資料  | 甲子夜話（副本・写本）                | 鏡川町      |
| 59  | 県指定 | 歴史資料  | 地球儀・天球儀                    | 鏡川町      |
| 60  | 県指定 | 考古資料  | 里田原遺跡出土の多鈕細文鏡              | 田平町      |
| 61  | 県指定 | 歴史資料  | 吉岐国続風土記                    | 鏡川町      |
| 62  | 県指定 | 絵画    | 絹本着色松浦義像                   | 鏡川町      |
| 63  | 県指定 | 史跡    | 笠松天神社古墳                    | 田平町      |
| 64  | 県指定 | 史跡    | 岳崎古墳                       | 田平町      |
| 65  | 県指定 | 無形民俗  | 田助ハイヤ節                     | 田助町・大久保町 |
| 66  | 県指定 | 工芸品   | 田平熊野神社の懸仏                  | 田平町      |
| 67  | 県指定 | 史跡    | 鯨組主益富家居宅跡                  | 生月町      |
| 68  | 県指定 | 建造物   | 旧松浦家住宅(千歳閣・九阜斎・玄関)         | 鏡川町      |
| 69  | 県指定 | 建造物   | 紐差教会                       | 紐差町      |
| 70  | 県指定 | 工芸品   | 松浦家伝来少年用渡来上着 2着(青地上着・白地上着) | 鏡川町      |
| 71  | 県指定 | 天然記念物 | 平戸戸石川のハルサザンカ               | 戸石川町     |
| 72  | 県指定 | 古文書   | 松浦文書                       | 鏡川町      |
| 73  | 県指定 | 古文書   | 石志文書                       | 鏡川町      |
| 74  | 県指定 | 古文書   | 伊万里文書                      | 鏡川町      |
| 75  | 県指定 | 古文書   | 相知文書                       | 鏡川町      |
| 76  | 県指定 | 古文書   | 吉村組捕鯨文書                    | 生月町      |
| 77  | 県指定 | 考古資料  | 里田原遺跡出土の木製品                | 田平町      |
| 78  | 県指定 | 建造物   | 益富家恵比須社霊殿                  | 生月町      |
| 79  | 市指定 | 無形民俗  | 荻田浮立                       | 田平町      |
| 80  | 市指定 | 史跡    | 焼罪                         | 田平町      |
| 81  | 市指定 | 史跡    | 里田原条理遺構                    | 田平町      |
| 82  | 市指定 | 天然記念物 | 塩俵 - 玄武岩柱状節理               | 田平町      |
| 83  | 市指定 | 史跡    | 富永古墳                       | 生月町      |
| 84  | 市指定 | 史跡    | 井上氏墓地                      | 生月町      |
| 85  | 市指定 | 有形民俗  | 永光寺梵鐘                      | 生月町      |
| 86  | 市指定 | 史跡    | 殉教地・一部氏屋敷跡                 | 生月町      |

| No. | 区分  | 種別    | 名称                              | 所在   |
|-----|-----|-------|---------------------------------|------|
| 87  | 市指定 | 史跡    | 殉教地・焼山                          | 生月町  |
| 88  | 市指定 | 史跡    | 殉教地・ガスバル様                       | 生月町  |
| 89  | 市指定 | 史跡    | 殉教地・千人塚                         | 生月町  |
| 90  | 市指定 | 史跡    | 殉教地・ダンジク様                       | 生月町  |
| 91  | 市指定 | 史跡    | 御崎浦捕鯨納屋場跡                       | 生月町  |
| 92  | 市指定 | 史跡    | 天山流指南豊嶋権平的場跡                    | 大久保町 |
| 93  | 市指定 | 史跡    | 富春庵跡                            | 木引町  |
| 94  | 市指定 | 彫刻    | 阿弥陀寺の地藏菩薩座像                     | 野子町  |
| 95  | 市指定 | 彫刻    | 阿弥陀寺の懸仏                         | 野子町  |
| 96  | 市指定 | 天然記念物 | 金立神社の社叢                         | 前津吉町 |
| 97  | 市指定 | 天然記念物 | 八幡神社の社叢                         | 小田町  |
| 98  | 市指定 | 考古史料  | 田助古墳出土の一括遺物                     | 大久保町 |
| 99  | 市指定 | 工芸品   | 不空訳「仁王護国般若波羅密多經」版木一揃（両面彫刻 37 枚） | 岩の上町 |
| 100 | 市指定 | 彫刻    | 媽姐像及びその隨身                       | 川内町  |
| 101 | 市指定 | 無形民俗  | 生月勇魚捕唄                          | 生月町  |
| 102 | 市指定 | 史跡    | 普門寺（旧龍瑞寺跡）                      | 木ヶ津町 |
| 103 | 市指定 | 史跡    | 城山焼窯跡                           | 田平町  |
| 104 | 市指定 | 無形民俗  | 築地町のジャ踊り                        | 築地町  |
| 105 | 市指定 | 工芸品   | オランダ船锚                          | 岩の上町 |
| 106 | 市指定 | 無形民俗  | 獅子の須古踊り                         | 獅子町  |
| 107 | 市指定 | 書跡・典籍 | 本山神社の文書                         | 大島村  |
| 108 | 市指定 | 書跡・典籍 | 大島羽差文書                          | 大島村  |
| 109 | 市指定 | 書跡・典籍 | 天降神社の文書                         | 大島村  |
| 110 | 市指定 | 工芸品   | 金剛院の版本仁王經                       | 大島村  |
| 111 | 市指定 | 工芸品   | 金剛院の大般若經                        | 大島村  |
| 112 | 市指定 | 工芸品   | 金剛院の釈迦涅槃図                       | 大島村  |
| 113 | 市指定 | 彫刻    | 金剛院の釈迦誕生仏                       | 大島村  |
| 114 | 市指定 | 彫刻    | 金毘羅大権現地藏菩薩坐像                    | 大島村  |
| 115 | 市指定 | 彫刻    | 西福寺の阿弥陀仏如来坐像                    | 大島村  |
| 116 | 市指定 | 有形民俗  | 塩吹出之図                           | 大島村  |
| 117 | 市指定 | 有形民俗  | 本山神社の石鳥居                        | 大島村  |
| 118 | 市指定 | 有形民俗  | 天降神社の石鳥居                        | 大島村  |
| 119 | 市指定 | 有形民俗  | 天降神社の石灯籠                        | 大島村  |
| 120 | 市指定 | 有形民俗  | 益富組の奉納絵馬                        | 大島村  |
| 121 | 市指定 | 有形民俗  | 鯨の供養碑                           | 大島村  |
| 122 | 市指定 | 有形民俗  | 篠崎組の奉納絵馬                        | 大島村  |
| 123 | 市指定 | 史跡    | 殿川                              | 大島村  |
| 124 | 市指定 | 史跡    | 岳下古墳跡                           | 大島村  |
| 125 | 市指定 | 彫刻    | 業師如来立像                          | 大島村  |
| 126 | 市指定 | 彫刻    | 阿弥陀如来立像                         | 大島村  |
| 127 | 市指定 | 考古資料  | 中国宋代青磁香炉                        | 大島村  |
| 128 | 市指定 | 有形民俗  | 天降神社の棟札                         | 大島村  |
| 129 | 市指定 | 有形民俗  | 阿弥陀堂の半鐘と胴鼓                      | 大島村  |
| 130 | 市指定 | 有形民俗  | 大根坂の六地藏                         | 大島村  |

| No. | 区分  | 種別    | 名称             | 所在   |
|-----|-----|-------|----------------|------|
| 131 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 西神浦流儀    | 大島村  |
| 132 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 前平東流儀    | 大島村  |
| 133 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 前平川畑・東流儀 | 大島村  |
| 134 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 前平神山・西流儀 | 大島村  |
| 135 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 西宇戸流儀    | 大島村  |
| 136 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 大根坂流儀    | 大島村  |
| 137 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の流儀 的山流儀     | 大島村  |
| 138 | 市指定 | 無形民俗  | 大島の六斎念仏        | 大島村  |
| 139 | 市指定 | 史跡    | 宋賀様            | 大島村  |
| 140 | 市指定 | 史跡    | 千人塚            | 大島村  |
| 141 | 市指定 | 史跡    | 朝鮮井戸           | 大島村  |
| 142 | 市指定 | 史跡    | 政務役の墓          | 大島村  |
| 143 | 市指定 | 史跡    | 大根坂支石墓         | 大島村  |
| 144 | 市指定 | 史跡    | 天道山祭祀遺跡        | 大島村  |
| 145 | 市指定 | 史跡    | 勘定場の井戸         | 大島村  |
| 146 | 市指定 | 史跡    | 鯨の浦            | 大島村  |
| 147 | 市指定 | 天然記念物 | 板の浦アコウ         | 大島村  |
| 148 | 市指定 | 天然記念物 | 天降神社のイノキ       | 大島村  |
| 149 | 市指定 | 天然記念物 | 恵籠ソテツ          | 大島村  |
| 150 | 市指定 | 天然記念物 | スキヤクジャク        | 大島村  |
| 151 | 市指定 | 書跡・典籍 | 真教寺の文書         | 大島村  |
| 152 | 市指定 | 工芸品   | 井元宗傳夫婦絵像       | 大島村  |
| 153 | 市指定 | 有形民俗  | 真教寺の梵鐘と半鐘      | 大島村  |
| 154 | 市指定 | 有形民俗  | 真教寺の絵像絵伝       | 大島村  |
| 155 | 市指定 | 有形民俗  | 魚の供養碑          | 大島村  |
| 156 | 市指定 | 彫刻    | 山王権現坐像         | 大島村  |
| 157 | 市指定 | 有形民俗  | 大川原の六地藏壱基      | 大川原町 |
| 158 | 市指定 | 史跡    | 旧平戸藩志自岐家武家屋敷   | 岩の上町 |
| 159 | 市指定 | 天然記念物 | 山野のサザンカ 2本     | 主師町  |
| 160 | 市指定 | 天然記念物 | 獅子のアコウ         | 獅子町  |
| 161 | 市指定 | 史跡    | 御部屋の坂          | 大久保町 |
| 162 | 市指定 | 無形民俗  | 館浦須古踊行事        | 生月町  |
| 163 | 市指定 | 天然記念物 | 平戸ニドザキサクラ      | 戸石川町 |
| 164 | 市指定 | 有形民俗  | 白山神社二の鳥居       | 生月町  |
| 165 | 市指定 | 有形民俗  | 鯨恵比寿像          | 生月町  |
| 166 | 市指定 | 有形民俗  | 住吉神社鳥居         | 生月町  |
| 167 | 市指定 | 史跡    | 古賀江網干場跡        | 生月町  |
| 168 | 市指定 | 建造物   | 光明寺の経堂・鐘堂・山門   | 鏡川町  |
| 169 | 市指定 | 考古資料  | 里田原遺跡出土遺物      | 田平町  |
| 170 | 市指定 | 天然記念物 | 慈眼桜            | 木ヶ津町 |
| 171 | 市指定 | 天然記念物 | 沖禎介宅跡の大イヌマキ    | 鏡川町  |
| 172 | 市指定 | 史跡    | ウシワキの森         | 大石脇町 |
| 173 | 市指定 | 史跡    | 鄭成功関連史跡        | 川内町  |
| 174 | 市指定 | 天然記念物 | 田平町本山のノダフジ     | 田平町  |
| 175 | 国登録 | 建造物   | 大曲家住宅主屋        | 岩の上町 |

| No. | 区分  | 種別    | 名称                    | 所在    |
|-----|-----|-------|-----------------------|-------|
| 176 | 国登録 | 建造物   | 大曲家住宅石段及び石垣           | 岩の上町  |
| 177 | 国登録 | 建造物   | 大曲公家住宅主屋              | 岩の上町  |
| 178 | 国登録 | 建造物   | 大曲公家住宅石段及び石垣          | 岩の上町  |
| 179 | 国登録 | 建造物   | 内野家住宅主屋               | 岩の上町  |
| 180 | 国登録 | 建造物   | 内野家住宅煉瓦塀              | 岩の上町  |
| 181 | 国登録 | 建造物   | 内野家住宅門及び塀             | 岩の上町  |
| 182 | 国登録 | 建造物   | 内野家住宅石段               | 岩の上町  |
| 183 | 国登録 | 建造物   | 益富家住宅主屋               | 生月町   |
| 184 | 国登録 | 建造物   | 益富家住宅座敷               | 生月町   |
| 185 | 国登録 | 建造物   | 益富家住宅御成門              | 生月町   |
| 186 | 国登録 | 建造物   | 梅ヶ谷津倍楽園主屋             | 明の川内町 |
| 187 | 国登録 | 建造物   | 梅ヶ谷津倍楽園石塀及び石段         | 明の川内町 |
| 188 | 国登録 | 建造物   | 梅ヶ谷津倍楽園石垣             | 明の川内町 |
| 189 | 国登録 | 建造物   | 梅ヶ谷津倍楽園稻荷社            | 明の川内町 |
| 190 | 国登録 | 建造物   | 「松浦史料博物館(旧松浦詮邸)」閑雲亭   | 田平町   |
| 191 | 国登録 | 建造物   | 「松浦史料博物館(旧松浦詮邸)」閑雲亭待合 | 田平町   |
| 192 | 国登録 | 建造物   | 鮎川家住宅母屋               | 田平町   |
| 193 | 国登録 | 建造物   | 鮎川家住宅石垣及び石段           | 田平町   |
| 194 | 国登録 | 建造物   | 亀岡神社本殿                | 岩の上町  |
| 195 | 国登録 | 建造物   | 亀岡神社幣殿及び登廊            | 岩の上町  |
| 196 | 国登録 | 建造物   | 亀岡神社拝殿                | 岩の上町  |
| 197 | 国登録 | 建造物   | 亀岡神社神楽殿               | 岩の上町  |
| 198 | 国登録 | 建造物   | 永山家住宅主屋               | 田助町   |
| 199 | 国登録 | 建造物   | 永山家住宅隠居屋              | 田助町   |
| 200 | 国登録 | 建造物   | 松浦家住宅主屋               | 鏡川町   |
| 201 | 国登録 | 建造物   | 松浦家住宅御祠堂              | 鏡川町   |
| 202 | 国登録 | 建造物   | 金剛庫                   | 鏡川町   |
| 203 | 国登録 | 建造物   | 仙禽庫                   | 鏡川町   |
| 204 | 国登録 | 建造物   | 旧角屋主屋                 | 田助町   |
| 205 | 市認定 | 史跡    | 大久保馬場                 | 大久保町  |
| 206 | 市認定 | 史跡    | 伝小麦様選拝所               | 大久保町  |
| 207 | 市認定 | 史跡    | 古田村本陣跡                | 津吉町   |
| 208 | 市認定 | 史跡    | 亀石様                   | 宝亀町   |
| 209 | 市認定 | 史跡    | がわっぱ様                 | 水垂町   |
| 210 | 市認定 | 史跡    | 真教寺下の井戸               | 大島村   |
| 211 | 市認定 | 天然記念物 | 浦の町の大ソテツ              | 浦の町   |
| 212 | 市認定 | 有形文化財 | 日蘭親交記念碑               | 大久保町  |
| 213 | 市認定 | 有形文化財 | 英国商館遺跡之碑              | 岩の上町  |



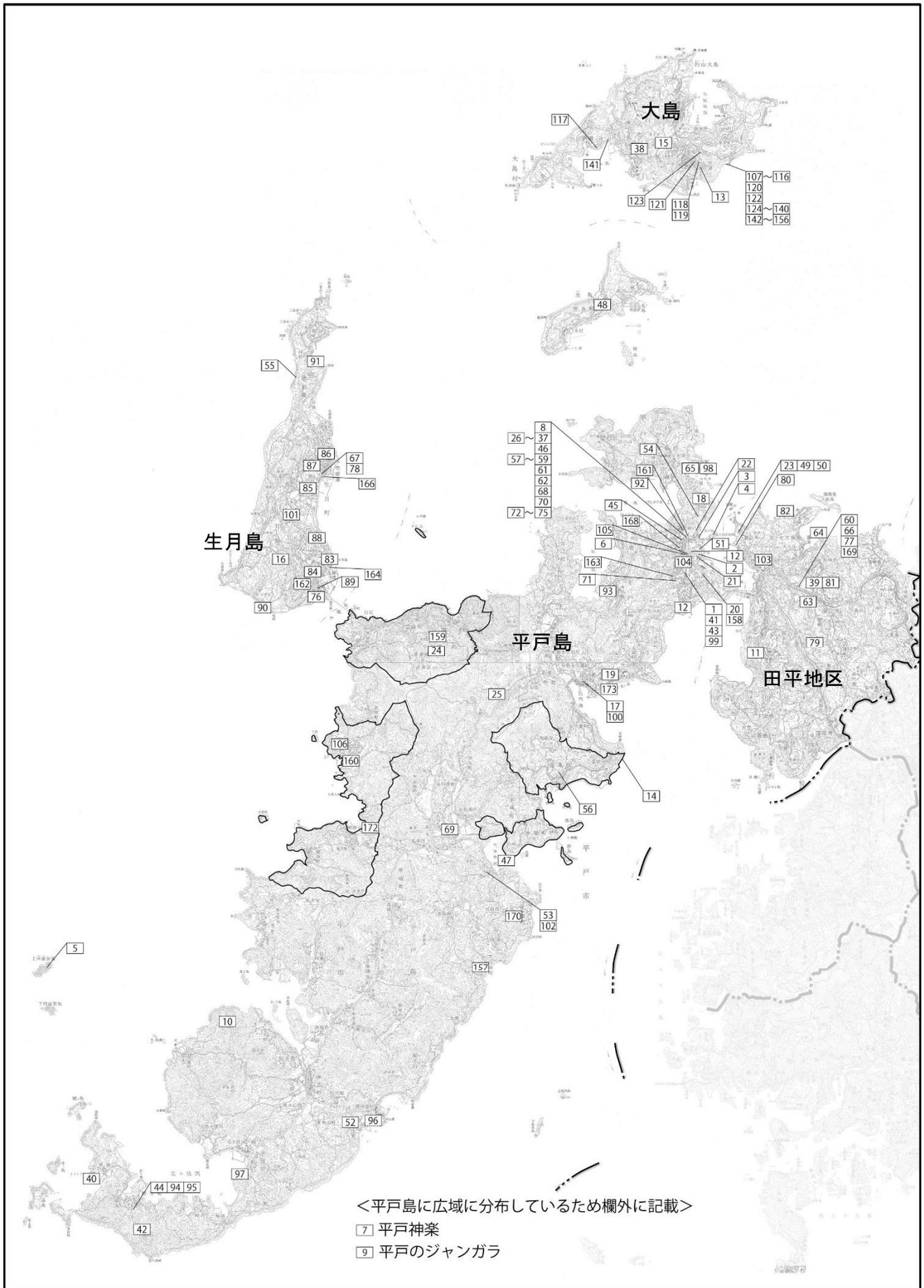


図 29 指定文化財位置図 (表 13 No.1~174)

### 3-1-2. 平戸市の文化財の特徴

前項の表 13 に挙げられる物件は、国・県・市及び所有者が今後も保護を図るべき貴重な文化財であることを了解したものである。213 件の指定文化財は多様な価値を示しているが、特に港市平戸で形成されてきた文化財や国際交流を基層とした文化財などは、平戸の歴史文化の特徴をよくあらわしているといえる。



(1) 港市平戸において形成されてきた文化財 など

- <有形> 棲霞園、紺糸威肩白赤胴丸、甲子夜話、亀岡のマキ並木、式内社志々伎神社跡、松浦文書 ほか
- <無形> 平戸おくんち、御神幸、平戸神楽 ほか



(2) 国際交流を基層とした文化財 など

- <有形> 平戸和蘭商館跡、幸橋、田平天主堂、鄭成功居宅跡、平戸島の文化的景観、コックスの甘藷畑跡、中野窯跡、焼罪、殉教地・ガスバル様、ウシワキの森 ほか
- <無形> かくれキリタン習俗 ほか



(3) 生活生業により形成されてきた文化財 など

- <有形> 大島村神浦伝統的建造物群保存地区、平戸島の文化的景観、鯨組主益富家居宅跡 ほか
- <無形> 平戸のジャンガラ、須古踊、生月勇魚捕唄 ほか

図 30 平戸市の文化財の特徴

しかし、地域にはそれら指定文化財以外にも重要な文化や自然などの地域資源が無数に内包されている。それらの地域資源は、文化財の指定を受けてはいないものの、地域の歴史や文化の理解に不可欠であり、また、住民のアイデンティティの根幹を成すものとして重要な財産になっている。社会構造や価値観の変化から、不意に滅失してしまう恐れのあるこれらの資源は、持続可能な歴史文化まちづくりを推進する上で重要な役割を担うものであることを認識する必要がある。

また、指定文化財の体系（有形文化財、無形文化財、記念物、文化的景観など）にとらわれず、地域資源の文脈を読み取り、その周辺環境までを含めて総合的に保全・活用していくために必要な整備事業も考えられることから、平戸市では『歴史的風致維持向上計画』の策定に向けた検討も併せて行っている。

図 30 のうち、特に、海外との交流に関連するものや、港を支配していた松浦家に関する文化財の一部を以下に抽出した。

#### (1) 国指定文化財

##### ① 平戸和蘭商館跡【国指定史跡】

平戸オランダ商館は、慶長 14 年（1609）に平戸に設置された東アジアにおけるオランダの貿易拠点で、寛永 18 年（1641）に長崎出島移転が命じられるまでの 33 年間存続し、鎖国

以前の海外交流を示す重要な文化財である。

江戸時代はじめごろの日本は、積極的に外国との交易を行っており、中国やポルトガルなどの船が長崎に来航していた。そうしたなか平戸オランダ商館は、オランダの東アジア地域での最前線として重要な役割を担っていた。はじめはそれほど多くの利益があったわけではないが、日本が徐々に海外交易の統制（海禁政策）を強めていく1630年代後半から貿易額は飛躍的に増大していく。

そこで商館は膨大な量の商品を保管するために大型の倉庫の建設に着手する。寛永16年（1639）に建設されたこの倉庫は、日本では類を見ない巨大な洋風の石造りの倉庫であり、当時の日本人の目にはこの倉庫の外観が、かなり奇異なものであったことが当時の記録からうかがえる。

やがて、日本人の海外渡航が禁止されポルトガル船の来航も禁止されると、オランダは（中国を除いて）唯一の交易相手として日本貿易を一手に担うことになるが、海禁政策の波は商館にもおよび、はじめに巨費を投じて建設した寛永16年（1639）築造倉庫は破壊を命じられ、最終的には長崎出島へと移転させられることになる。

平戸オランダ商館時代の大きな特徴は、長崎出島と違って比較的自由的な雰囲気の中で、日常的に住民との交流が繰り広げられたことであるといえ、港市平戸の特性を強く表すものである。



写真 24 平戸和蘭商館跡発掘調査の様子



写真 25 復元された平戸和蘭商館

## ②田平天主堂【国指定建造物】

田平天主堂は、平戸瀬戸を望む台地状の高台に位置する。設計施工は、長崎県を中心に九州地方北部に数多くの教会堂を手がけた新上五島町出身の鉄川与助による。大正6年（1917）10月に竣工し、大正7年（1918）5月14日に献堂式が行われた。

煉瓦造及び木造で、正面中央に八角形のドームを頂く鐘塔を付けた重層屋根構成である。3廊式で、身廊部の立面構成は、アーケード、トリフォリウム、クリアストーリーを備えた本格的な構成であり、天井は身廊部・側廊部ともに木製の4分割リブ・ヴォールト天井である。田平天主堂は鉄川与助の煉瓦造教会堂作品の中では最後のもので、外観、内部とも全体的に均整のとれた構成であり、鐘塔を中央に付設した象徴的な正面の構えや、多彩な煉瓦積み手法を駆使した華やかな細部も意匠的に優れており、外観の表情に彩りをも添えている。平戸瀬戸を見下ろす高

台に立地し、教会の周囲には畑地、北側にはキリシタン墓地が広がるといったロケーションの良さや、司祭館をはじめ、門柱石段、石垣などが残り、周辺の歴史的環境がよく保存されている点も貴重である。

田平天主堂は、明治のキリスト教の再布教を象徴する建造物である。



写真 26 田平天主堂外観



写真 27 田平天主堂内観

### ③ 棲霞園及び梅ヶ谷津借楽園【国指定名勝】

棲霞園は通称「御花畑」とよばれ、享保 3 年（1718）に再築された亀岡城の北西部にある。松浦家代 35 代熙（ひろむ 観中）により文化 7 年（1810）～文政 12 年（1829）にかけて造成され完成にいたっており、名前の由来は松浦家祖先にあたる左大臣源融が作った山荘「棲霞観」を参考にしてつけられたとされる。松浦史料博物館には、「御花畑之図」絵図として 8 枚保管され、この絵図を観察することにより植栽や建物の様子が分かるほど細かい描写がみとれる。文政 7 年（1824）の最初の絵図には、スギ、マツ、ウメ、カエデ及びタケなどを群落ごとに植樹し、また花壇は 16～17 世紀にヨーロッパで流行した花壇を意識して造られており、その規模も当時としては大規模なものであったことが分かる。



写真 28 棲霞園



写真 29 梅ヶ谷津借楽園

## （2）国選択文化財

### ① 長崎「かくれキリシタン」習俗【国選択無形民俗】

天文 19 年（1550）に平戸を訪れたフランシスコ・ザビエル神父によって始まった長崎地方のキリシタン信仰は、永禄元（1558）年と永禄 8 年（1565）に行われた一斉改宗によって、当時キリシタンに改宗した籠手田氏、一部氏が治めていた地域に多くの信者を得ることになる。慶

長4年（1599）には平戸藩域は禁教の時代を迎えるが、信者は仏教や神道を併存させながらもキリシタンの組を維持して聖具を祀り、行事を続け、祈りの言葉であるオラシヨを継承してきた。開国後の元治2年（1865）、長崎市の大浦天主堂で浦上のかくれキリシタン信者がカトリックの神父との接触を果たした後にカトリックの再布教が始まり、明治6年（1873）には政府がキリシタン禁教の高札を撤廃するが、平戸地方ではほとんどの人が禁教期の信仰形態を続けた。明治以降に継続されたこのような信仰形態は「かくれキリシタン」と呼ばれている。



写真30 かくれキリシタン信仰（聖水採取の様子）



写真31 納戸神と呼ばれるご神体（オテンペンシャ）

### （3）県指定文化財

#### ①鄭成功居宅跡【県指定史跡】

鄭成功は、父が中国の貿易商鄭芝龍、母が平戸市川内町の日本人女性で、7歳まで川内で過ごしている。文献史料などから、当地に住居があったと考えられており、観音堂には中国船の守り神とされる媽祖像と隨身（千里眼・順風耳）が祀られているほか、敷地内には鄭成功が植えたと伝えられているナギの木が残されている。

#### ②コックスの甘藷畑【県指定史跡】

リチャード・コックスは、慶長18年（1613）から元和9年（1623）まで初代英国商館長として平戸に赴任していた。また、同国人であるウィリアム・アダムス（三浦按針）の紹介で徳川幕府とも接触している。このアダムスが琉球から甘藷を持ち帰りコックスに手渡したことが「イギリス商館長日記」に書かれている。甘藷は、当時貿易副港として利用されていた川内に畑を借りて植えられたとされている。

#### ③中野窯跡【県指定史跡】

窯跡は、「茶碗窯」と「皿焼窯」の2箇所あり、始まりは、豊臣秀吉の命により2度にわたって行われた朝鮮半島への出兵に参加した松浦家第26代鎮信（<sup>しげのぶ</sup> <sup>ほういん</sup>法印）が、帰国の際に朝鮮の陶工を連れ帰り開かせたとされている。発掘調査により、階段状連房式登窯であることが分かっており、物原と呼ばれる焼き損じを廃棄したところからは多くの陶磁器や窯道具が見つかっている。窯の作り方は耐火レンガを積み上げる当時としては新しい技術を用いており、朝鮮だけでなく中国の技術が導入されたものと考えられる。

#### ④オランダ船錨及び付属文書【県指定工芸品】

天明2年（1782）、川内港で船錨が引き上げられた。この錨は、港から見る事ができる場所に置き去りにされていたもので、17世紀に入港していたオランダ船のものであると伝わっていた。引き上げたことを知った松浦家第34代清（<sup>きよし</sup>静山）は模写し、これを出島和蘭商館長に見せ、蘭文でオランダ船錨であるとの証明書を発行してもらっている。蘭文で書かれた証明書は、オランダ通詞により翻訳され、静山に上奏されている。

#### ⑤松浦家伝来少年用渡来上着2着（青地上着・白地上着）【県指定工芸品】

代々平戸松浦家に伝承されたもので、ヨーロッパの様式を持った少年用の洋服で、裏地や縫い方はアジアの洋服の特徴を持っている。青地上着は、17世紀にペルシャで織られたものと考えられ、上層階級の人々が着る高級な絹織物で現在では他国では断片すら見られないほど貴重なものである。白色上着は、ヨーロッパ商人が中国に注文し織らせたもので、当時の洋服が完成品として現存する例は世界的にも希少であり、歴史的にも美術品としても価値が高い。

#### ⑥旧松浦家住宅（千歳閣・九阜斎・玄関）【県指定建造物】

現在、松浦史料博物館として公開されている建物は、松浦家第37代詮（<sup>あきう</sup>心月）の旧自邸で、18世紀初頭に松浦家が政庁を構えた御館の石垣や石段の遺構を生かして明治26年（1893）に建てられたものである。木造平屋建、棧瓦葺で、主屋である千歳閣、書院に相当する九阜斎、その入口である玄関からなっている。



写真 32 千歳閣ほか



写真 33 松浦史料博物館として活用されている。

### （4）市指定文化財

#### ①富春庵跡【市指定史跡】

建久2年（1191）、栄西が再度の入宋から臨済宗を継承しての帰りに葦浦（古江湾）に上陸し、小庵を設けたと伝えられる。栄西は、この庵で日本初の座禅を布し、説法を行ったとされ、この禅房が富春庵と称され、また、栄西が座禅をしたと伝えられる座禅石がある。

#### ②ウシワキの森【市指定史跡】

16世紀、根獅子町はキリシタンとなった籠手田氏の領地であり、その領民をカトリックに一斉改

宗している。江戸時代の禁教政策による弾圧により、この地の殉教者を葬った場所がウシワキの森であったと伝えられている。発掘調査により、キリシタンの埋葬形態を示す長形に組まれた墓石や伸展葬による人骨が発見された。同時の検出された鉄釘の状況により、長形木棺を用いていたことも判明している。ウシワキについては、16世紀の宣教師書簡にその状況も書かれており、当時のキリスト教布教の様子を示す遺構として価値が高い。



写真 34 聖地ウシワキの森



写真 35 発掘調査の状況

### ③焼罪【市指定史跡】

キリスト教禁教時代の平戸で密かに布教を行っていたカミロ・コスタンツォは、元和8年（1622）に捕えられ、田平町の野田で火刑に処せられた。平戸オランダ商館長の日記にも、白い海岸で処刑されたと書かれている。神父をかくまった平戸の人々も多く処刑されている。

### ④殉教地ガスパル様【市指定史跡】

生月町山田地区の高台にある西玄可（洗礼名ガスパル）の処刑、埋葬地で、ガスパル様の墓とされる積石墓が残り、そこから生えた松の大木とともにかくれキリシタンの聖地となった。彼は籠手田氏の家臣であったが、籠手田氏が慶長4年（1599）に長崎に退去した後も生月に残り、信者の指導を行っていた。慶長14年（1609）に捕えられ、妻子共々処刑された。平成20年（2008）に、西玄可と妻子が福者に列せられた。



写真 36 ガスパル様の墓



写真 37 記念碑のある公園から聖地中江ノ島を望む

### ⑤朝鮮井戸【市指定史跡】

大島の南西部、的山湾の一角にある井戸で、室町時代のものといわれている。井戸の近くには

水系があり、海岸から黒曜石が発見されることなどから原始古代以来の水系と思われるが、秀吉の朝鮮出兵のおりに参戦した船団が渡航用の用水を積み込んだことなどから、朝鮮井戸と呼ばれるようになったと考えられている。



写真 38 朝鮮井戸



写真 39 的山港

## (5) 登録文化財

### ①松浦史料博物館（旧松浦詮邸）閑雲亭・閑雲亭待合【国登録建造物】

松浦史料博物館の敷地内にある茶室とその待合で、閑雲亭は半間の床を持つ4畳のお茶室と6畳の控えの間からなり、屋根を葺きおろした北側部分に雪隠と手水場を備えている。



写真 40 閑雲亭



写真 41 待合

### ②松浦家住宅主屋・御祠堂 金剛庫・仙禽庫【国登録建造物】

旧平戸藩主の屋敷を、松浦史料博物館として利用することになったため、昭和32年（1957）に建てられた住宅である。近世以前の伝統的な施設を取り入れた建物として貴重である。松浦家住宅に至る道沿いに建てられているのが金剛庫と仙禽庫で、天保10年（1839）に平戸城内に建てられていたものが移築されたものと考えられている。

## (6) 認定文化財

### ①伝小麦様遥拝場【市認定史跡】

松浦家第26代鎮信（<sup>しげのぶ</sup>法印）が、文禄・慶長の役に参戦し、これから帰陣する際に連れ帰ったとされる小麦様（と呼ばれる人物）の遥拝場と言われている。

### 3-1-3. 文化財調査の現状

これまで文化財部局で発行した文化財の類型ごとの調査報告書や市史関係書籍のほか、研究者などが発表してきた論文や書籍などが存在しており、それらの調査成果を学際的にとらえ、価値を再編することで、これまで文化財として取り扱うことが難しかった地域資源についても評価が可能になると思われる。参考として、以下にその一部を示す。

#### (1) 市史・郷土史関係

志々伎村（1926）『志々伎村郷土史』  
 中野村（1926）『中野郷土史 一』  
 中野村（1926）『中野郷土史 二』  
 中野村（1926）『中野郷土史 三』  
 平戸村（1926）『平戸村郷土史 上』  
 平戸村（1926）『平戸村郷土史 中』  
 平戸村（1926）『平戸村郷土史 下』  
 獅子村（1926）『獅子村郷土史』  
 平戸市役所（1967）『平戸市史』  
 田平町開発調整課（1974）『町制 20 周年記念 田平町今昔写真集』  
 平戸市史編さん委員会（1995）『平戸市史 自然・考古編』  
 平戸市史編さん委員会（1998）『平戸市史 民俗編』  
 平戸市史編さん委員会（1998）『平戸市史 古写真編』  
 平戸市史編さん委員会（2004）『平戸市史 海外史料編Ⅰ』  
 平戸市史編さん委員会（2000）『平戸市史 海外史料編Ⅱ』  
 平戸市史編さん委員会（1998）『平戸市史 海外史料編Ⅲ』  
 平戸市史編さん委員会（2001）『平戸市史 絵図編 絵図にみる平戸』  
 平戸市史編さん委員会（2001）『平戸市史 歴史史料編Ⅰ』  
 平戸市史編さん委員会（2005）『平戸市史 通史編』  
 生月町教委（1997）『生月町史』  
 田平町教委（1993）『田平町郷土史』  
 大島村教委（1989）『大島村郷土史』

#### (2) 市文化財部局が発行した調査報告書関係

##### ①平戸市の文化財シリーズ

平戸市教委（1975）『平戸市の文化財』  
 平戸市教委（1975）『平戸市の文化財（2）』  
 平戸市教委（1975）『史跡平戸和蘭商館跡石垣補修復元工事報告書』  
 平戸市教委（1976）『平戸市文化財調査報告書』  
 平戸市教委（1976）『民俗資料緊急調査報告』  
 平戸市教委（1976）『壺陽録』  
 平戸市教委（1976）『文化財調査事業報告書』  
 平戸市教委（1977）『長崎県平戸市度島湯牟田中山遺跡』  
 平戸市教委（1977）『長崎県平戸市志々伎小田遺跡』

- 平戸市教委（1978）『中山遺跡の研究（1）〈遺物篇1〉』
- 平戸市教委（1978）『平戸市文化財発掘調査報告書』
- 平戸市教委（1978）『中山遺跡の研究Ⅰ』
- 平戸市教委（1978）『金柑茶屋第2遺跡』
- 平戸市教委（1980）『西海鯨鯨記』
- 平戸市教委（1980）『度島の盆ごつれい』
- 平戸市教委（1981）『平戸島西海岸の民俗』
- 平戸市教委（1982）『上大垣遺跡』
- 平戸市教委（1983）『築地町のジャ踊り』
- 平戸市教委（1983）『獅子の須古踊り』
- 平戸市教委（1983）『文化財調査事業報告』
- 平戸市教委（1985）『堤西牟田遺跡』
- 平戸市教委（1985）『堤西牟田遺跡Ⅱ』
- 平戸市教委（1985）『西中山遺跡・堤西牟田遺跡（Ⅱ）・亀岡城跡緊急発掘調査報告書』
- 平戸市教委（1986）『津吉遺跡群発掘調査報告書』
- 平戸市教委（1987）『金石文等文化財調査報告書』
- 平戸市教委（1988）『平戸市内キリシタン遺跡詳細分布調査報告書』
- 平戸市教委（1988）『平戸和蘭商館跡』
- 平戸市教委（1988）『史跡平戸和蘭商館跡保存管理計画策定書』
- 平戸市教委（1989）『牟田の原遺跡』
- 平戸市教委（1989）『崎瀬遺跡』
- 平戸市教委（1989）『史跡平戸和蘭商館跡Ⅱ』
- 平戸市教委（1990）『大戸遺跡』
- 平戸市教委（1990）『大戸遺跡Ⅱ・牟田の原遺跡Ⅱ・津吉遺跡群Ⅱ・平戸城Ⅱ』
- 平戸市教委（1991）『中の原遺跡・前田遺跡・火除遺跡・神の池遺跡B地点・榎神山遺跡』
- 平戸市教委（1991）『榎神山遺跡Ⅱ』
- 平戸市教委（1992）『平戸和蘭商館跡の発掘Ⅲ・鄭成功居宅跡の発掘』
- 平戸市教委（1993）『平戸和蘭商館跡の発掘Ⅳ・馬込遺跡の発掘Ⅰ・坊主畑第3遺跡の発掘』
- 平戸市教委（1993）『馬込遺跡の発掘Ⅱ』
- 平戸市教委（1994）『中の原遺跡Ⅱ』
- 平戸市教委（1994）『中野窯跡の発掘・平戸和蘭商館跡の発掘Ⅴ・馬込遺跡の発掘Ⅲ』
- 平戸市教委（1995）『川内紅毛キリシタン関連遺跡 湯牟田遺跡Ⅰ』
- 平戸市教委（1996）『平戸和蘭商館跡Ⅵ・大浜遺跡・浦小川遺跡』
- 平戸市教委（1997）『馬込遺跡の発掘調査Ⅳ』
- 平戸市教委（1997）『崎瀬遺跡発掘調査Ⅲ 辻遺跡発掘調査』
- 平戸市教委（1998）『草積遺跡・下大久保遺跡・下中野第1遺跡・西中山遺跡』
- 平戸市教委（1999）『平戸城跡・牟田遺跡・辻第3遺跡・西中山遺跡・御館跡』
- 平戸市教委（1999）『史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査Ⅶ』
- 平戸市教委（2000）『下大垣遺跡・天神下第2遺跡・入口遺跡・菅牟田遺跡・根獅子遺跡（1）・根獅子遺跡（2）・大野第1遺跡・辻第1遺跡』
- 平戸市教委（2000）『根獅子遺跡跡 大野第一遺跡 下大垣遺跡 辻第一遺跡 天神下第一遺跡 入口遺跡 菅牟田遺跡』



- 平戸市教委（2000）『市内遺跡確認調査報告書』  
平戸市教委（2001）『市内遺跡確認調査報告書』  
平戸市教委（2001）『西中山遺跡』  
平戸市教委（2002）『市内遺跡確認調査報告書』  
平戸市教委（2002）『平戸和蘭商館跡Ⅷ』  
平戸市教委（2003）『市内遺跡確認調査報告書』  
平戸市教委（2003）『市内遺跡確認調査報告書』平戸市教委（2004）『市内遺跡確認調査報告書』  
平戸市教委（2004）『平戸礫岩の岩石地植物群落』  
平戸市教委（2004）『光明寺経堂修理工事報告書』  
平戸市教委（2005）『市内遺跡確認調査報告書Ⅳ』  
平戸市教委（2005）『史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査Ⅸ』  
平戸市教委（2006）『市内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』  
平戸市教委（2006）『史跡平戸和蘭商館跡発掘調査Ⅹ』  
平戸市教委（2007）『市内遺跡確認調査報告書Ⅵ』  
平戸市教委（2007）『的山大島神浦平戸市大島村神浦伝統的建造物群保存対策調査報告』  
平戸市教委（2007）『平戸和蘭商館跡ⅩⅠ』  
平戸市教委（2007）『市内遺跡確認調査報告書Ⅶ』  
平戸市教委（2009）『市内遺跡確認調査報告書Ⅷ』  
平戸市教委（2009）『史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査ⅩⅡ』  
平戸市教委（2010）『市内遺跡確認調査報告書Ⅸ』  
平戸市教委（2010）『史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査ⅩⅢ』  
平戸市教委（2011）『市内遺跡確認調査報告書Ⅹ』  
平戸市教委（2012）『市内遺跡確認調査報告書ⅩⅠ』  
平戸市教委（2013）『市内遺跡確認調査報告書ⅩⅡ』  
平戸市（2014）『市内遺跡確認調査報告書ⅩⅢ』  
平戸市（2015）『市内遺跡確認調査報告書ⅩⅣ』  
平戸市（2016）『市内遺跡確認調査報告書ⅩⅤ』

## ②旧生月町、田平町、大島村の文化財報告書関係

- 生月町教委（1984）『潮見崎遺跡調査報告書』  
田平町教委（1982）『中野ノ辻遺跡・里田原遺跡』  
田平町教委（1985）『里田原遺跡』  
田平町教委（1988）『里田原』  
田平町教委（1989）『笠松天神社古墳』  
田平町教委（1992）『里田原遺跡』  
田平町教委（1992）『中野ノ辻遺跡』  
田平町教委（1996）『里田原遺跡』  
田平町教委（2001）『里田原遺跡』  
田平町教委（2003）『里田原遺跡』  
大島村教委（1975）『大島の須古踊』  
大島村教委（1986）『大島村の文化財』  
大島村教委（1987）『郷土史講座年表』

- 大島村教委（1989）『100周年100祭り』
- 大島村教委（1991）『大島村の石造物』
- 大島村教委（1992）『大根坂遺跡』
- 大島村教委（1992）『切支丹宗門御改連判帳』
- 大島村教委（1993）『神社帳』
- 大島村教委（1994）『西海・大島近海捕鯨年表他』
- 大島村教委（1995）『大嶋・明暦二年方帳・畑方帳抜書嘉永四年庄屋御調永代記録』
- 大島村教委（1997）『木曾氏・井元氏の系譜(参考)』
- 大島村教委（1998）『「大島村の主な溜池調査について」他』
- 大島村教委（2000）『長畑馬場遺跡』

### ③平戸紀要

- 平戸市（2012）『平戸紀要第1号 春日集落の信仰場所と空間構造ほか』
- 平戸市（2014）『平戸紀要第2号 外国人墓地発掘調査ほか』
- 平戸市（2015）『平戸紀要第3号 大陸との接点 平戸の自然誌』
- 平戸市（2016）『平戸紀要第4号 平戸遺産』
- 平戸市（2017）『平戸紀要第5号 根獅子遺跡特集』

### ④平戸市史研究・平戸歴史文庫

- 平戸市史編さん委員会（1995）『平戸市史研究第1号 平戸オランダ商館の対日貿易と商館建造物』
- 平戸市史編さん委員会（1999）『平戸市史研究第2号 平戸調査研究報告集』
- 平戸市史編さん委員会（1997）『平戸市史研究第3号 平戸英国商館と遺跡碑の建立ほか』
- 平戸市史編さん委員会（1998）『平戸市史研究第4号 日蘭400周年と海洋クラスター都市構想ほか』
- 平戸市史編さん委員会（2000）『平戸市史研究第5号 日蘭交流400周年記念特集号』
- 平戸市史編さん委員会（2000）『平戸市史研究第6号 日蘭交流400周年記念特集号』
- 平戸市史編さん委員会（2002）『平戸市史研究第7号 平戸オランダ商館の復元ほか』
- 平戸市史編さん委員会（2003）『平戸市史研究第8号 平戸オランダ堀ほか』
- 平戸市史編さん委員会（2004）『平戸市史研究第9号 入口遺跡特集』
- 平戸市史編さん委員会（2004）『平戸市史研究第10号 市町村合併の変遷特集』
- 平戸市史編さん委員会（1997）『平戸歴史文庫1 大航海時代の冒険者たち』
- 平戸市史編さん委員会（1999）『平戸歴史文庫2 蘭英商館と平戸藩』
- 平戸市史編さん委員会（2001）『平戸歴史文庫3 平戸はじめて物語』
- 平戸市史編さん委員会（2003）『平戸歴史文庫4 平戸ふるさと物語』
- 平戸市史編さん委員会（2005）『平戸歴史文庫5 まんが平戸の海外交流史』

### ⑤文化的景観関係

- 平戸市教委（2009）『平戸島と生月島の文化的景観保存調査報告書』
- 平戸市教委（2009）『平戸島の文化的景観保存計画書』
- 平戸市教委（2013）『平戸島の文化的景観整備活用計画』
- 文化的景観推進会議委員・大森洋子（2015）『平戸市飯良集落景観調査報告書』

### ⑥史跡・名勝関係

- 平戸市教委（1988）『史跡平戸和蘭商館跡保存管理計画策定書』



平戸市・平戸市教委（1998）『平戸オランダ商館の復元とまちづくり』  
平戸市（2016）『名勝榎園及び梅ヶ谷津偕楽園保存管理計画策定書』  
平戸市（2017）『平戸藩主の庭園に佇む石造物群 写真&実測図』

### ⑦その他

崎瀬遺跡調査会（1990）『崎瀬遺跡Ⅱ』  
山口古墳調査会（1993）『山口古墳』  
湯牟田遺跡調査会（1995）『湯牟田遺跡Ⅱ』  
海外交流史研究会（2005）『海外との交わり・平戸 旧石器時代から現代まで』  
東京大学先端科学技術研究センター都市保全システム分野・井上典子（2013）『平戸島西海岸地区の景観保全に関する研究』

## （3）その他

### ①報告書・書籍など

京都大学文学部国史研究室編（1951）『平戸松浦家資料』  
京都大学平戸学術調査団（1951）『平戸学術調査報告』  
矢動丸廣（1954）『平戸史話』  
田北耕也（1954）『昭和時代の潜伏キリタン』  
古野清人（1956）『生月のキリタン部落』  
片岡弥吉（1967）『かくれキリタン』  
長崎県教委（1965）『民俗資料調査報告書』  
長崎県教委（1972）『長崎県の民家』  
長崎県教委（1975）『里田原遺跡』  
長崎県教委（1976）『長崎県文化財調査報告書第29集 長崎県のカトリック教会』  
長崎県教委（1977）『長崎県の民俗芸能・民謡』  
長崎県教委（1978）『長崎県文化財調査報告書第40集 平戸・上五島地区の文化財』  
長崎県教委（1979）『日蘭関係資料』  
長崎県教委（1980）『キリタン関係資料』  
長崎県教委（1985）『長崎県の農具調査』  
長崎県教委（1985）『長崎県の近世寺社』  
長崎県教委（1991）『長崎県の天然記念物実態調査報告書』  
長崎県教委（1992）『長崎県古墳詳細分布調査報告書』  
長崎県教委（1992）『大陸渡来文物緊急調査報告書』  
長崎県教委（1998）『長崎県の近代化遺産』  
長崎県教委（1999）『長崎県文化財調査報告書第153集 長崎県のカクレキリタン』  
長崎県教委（2000）『長崎街道』  
長崎県教委（2002）『長崎県の祭り』  
長崎県教委（2004）『長崎県の近代和風建築』  
長崎県（2008）『長崎県世界遺産「構成資産基礎調査」』  
長崎県（2013）『長崎県内の多様な集落が形成する文化的景観保存調査報告書』  
関西学院大学地理研究会（1982）『度島』  
山田千香子・吉居秀樹（2011）『平戸・西海学 長崎県北の歴史と文化』

### 3-1-4. 文化財調査の課題

#### (1) 指定文化財の分布と傾向について

指定文化財集計表（表 12）や指定文化財等一覧表（表 13）及びその分布図（図 29）を見ると、以下のような傾向にあることが分かる。

指定文化財 213 件の内訳は、国指定など 16 件（指定・選定・選択）、県指定 62 件、市指定 96 件、国登録 30 件、市認定が 9 件となっており、地区別にみると平戸 115 件、生月 23 件、田平 21 件、大島 54 件となっている。平戸市は、平成 17 年（2005）に旧平戸市、旧生月町、旧田平町、旧大島村の 1 市 2 町 1 村で合併しており、旧自治体時代の指定文化財を基本的に引き継いでいるが、合併前における文化財行政の方針や人的体制などが指定数や文化財の構成などに影響を与えていると思われる。指定文化財等分布図（図 29）をみると、市役所がある市街地周辺に多くの文化財が集中していることが分かる。これは、古来より国際貿易港として展開してきた平戸港と、その支配者であった松浦家に関連する文化財が多く残されていることや、城下町として人口や産業が集積し続けたことなどに起因すると考えられる。平戸島中南部地区については、これまでも文化財担当部局による継続した調査研究が行われているところであるが、より価値が高いと考えられる地域資源については、平戸の宝を次世代に継承していくため、文化財指定を視野に入れた取り組みを検討していく必要がある。現在の指定文化財の傾向は図 31 のとおりであるが、文化的景観はこれらを総合的にとらえる概念である。

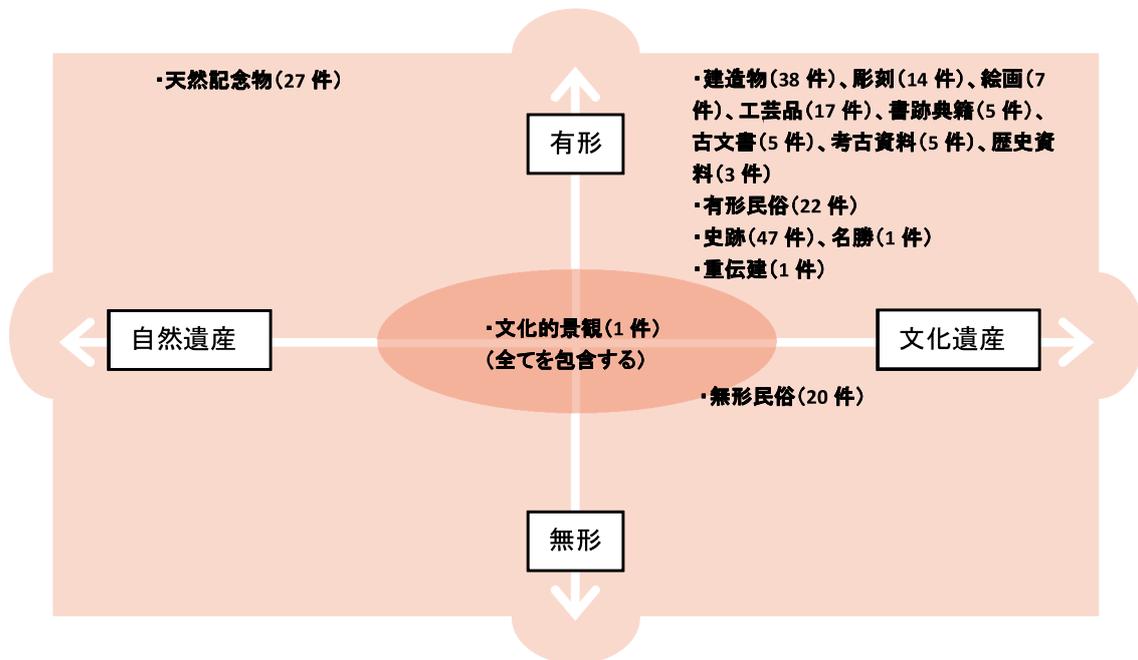


図 31 市内の文化財の指定の傾向

## (2) 指定文化財の充実に加えて今後注目すべき分野について

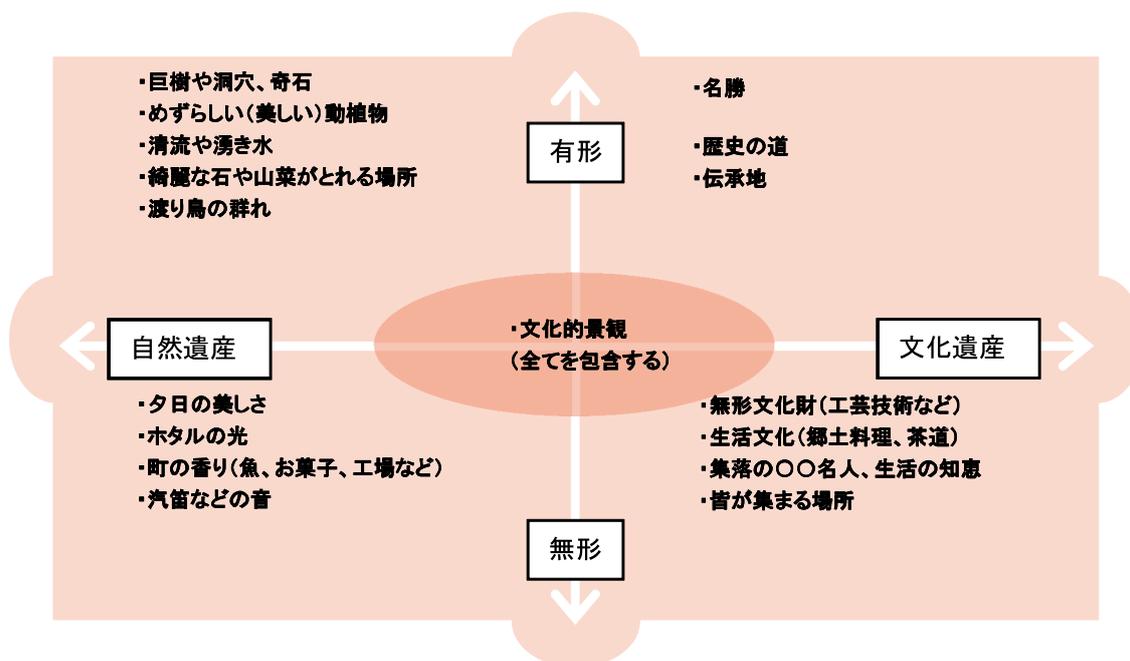


図 32 指定文化財では扱いにくい地域資源

第1章で、基本構想が計画対象とする範囲は「地域資源」であるとし、その分布を図3に示した。文化財保護法に基づく文化財の指定は重点保護を図る上で重要であることから、今後も推進するものとするが、平戸市においては、以下のような視点を加えることで、より市民に親しまれやすく、また、これまで文化財で扱いにくかった地域資源にも光を当てることができると考えられる(図32)。

- ①「歴史の道」のような広範囲に及ぶ文化財の指定推進
- ②現状で指定件数の少ない「名勝」や「文化的景観」の推進
- ③「清流や湧き水」、「ホタルの光」、「郷土料理」、「生活の知恵」などは、それ単体では指定文化財にならずとも、文化財の価値を理解する上で重要な要素になる可能性がある。

### 3-2. 「協働のまちづくり」で策定されたまちづくり計画について

総合的把握調査の手法（3-5）に記したとおり、平戸市では「協働のまちづくり」に関連する組織を中心に、地域住民主体による地域資源の発掘が行われ、まちづくりの方針を定めた諸計画が既に策定（または策定中）されており、基本構想を策定する上で整合性を図るべき重要なものである（図 33）。

この取り組みの中で実施される集落内の「宝探し」の成果を活用することで、幅広い地域資源の把握が可能になる。以降に、各地区のまちづくり計画の中から、地域資源に関する記載を抽出した。

※ 『山田・館浦地区まちづくり計画（p.68）』から『田平まちづくり計画（p.84）』において抽出している地域資源の名称は、各まちづくり計画に記される原文のままとした。各地域において、指定文化財を含むそれらの地域資源が何という名称で認知されているかを把握するためである。各まちづくり計画において、計画対象範囲外の地域資源の名称が挙げられている場合があるが、それらは地域を越えて認知されている大切な文化遺産ということである。逆に、各地域に所在する指定文化財が、各地区のまちづくり計画の中で地域資源としてピックアップされていないならば、その文化財は地域住民に地域の宝ものとして認知されていない可能性があるため、早急に普及啓発を図る必要があると考えられる。

※各まちづくり計画に記された地域資源は、調査票（表 19）の分類に基づき事務局（文化交流課）が再編した。

これらの地域資源は、地域住民により再認識された宝ものであり、この宝を基礎とした展開につなげることが重要である。

#### <抽出された地域資源活の展開例>

|            |   |
|------------|---|
| 文化財への指定推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡、名勝、天然記念物などへの指定</li> <li>・市認定文化財への指定</li> <li>・地域住民や開発部局との情報共有 など</li> </ul>                          |
| 文化観光の推進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源解説カードへの追記</li> <li>・集落散策マップの作成</li> <li>・文化観光ツアーの実施</li> <li>・加工品などの創出</li> <li>・情報発信 など</li> </ul> |
| 教育・生涯学習の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館講座などの実施</li> <li>・学校教育との連携 など</li> </ul>   |
| 災害時の文化財保護  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財レスキューマップの作成</li> <li>・消防や消防団との情報共有 など</li> </ul>   |

※平成 25 年度から、市の認定文化財という制度を設けて運用している。

